

509.19-To467



1200500744707

19.19  
046

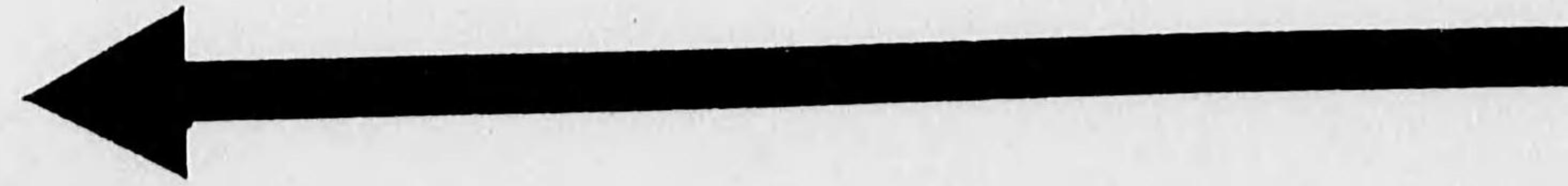
産業報國運動概要

東京産業報國會編

×  
複写



始



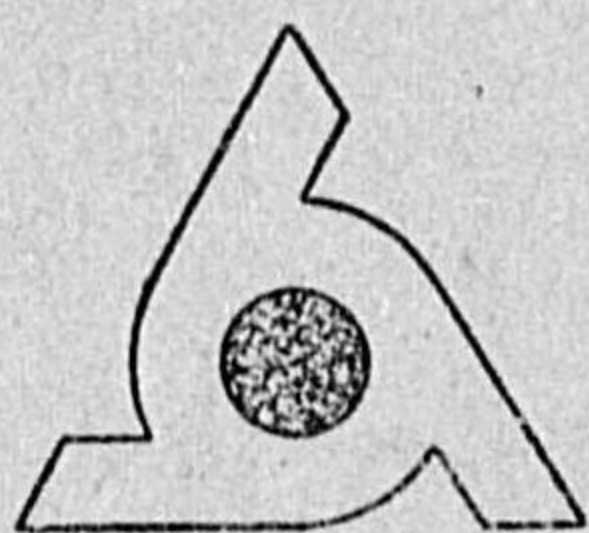
509.19  
T046

昭和十六年十一月

# 產業報國運動概要

東京產業報國會

509.19  
T046



# 大日本産業報國會綱領

- 一、我等ハ國體ノ本義ニ徹シ、全産業一體報國ノ實ヲ舉ゲ以テ皇運ヲ扶翼シ奉ラムコトヲ期ス
- 一、我等ハ産業ノ使命ヲ體シ、事業一家職分奉公ノ誠ヲ致シ、以テ皇國産業ノ興隆ニ總力ヲ竭サムコトヲ期ス
- 一、我等ハ勤勞ノ眞義ニ生キ、剛健明朗ナル生活ヲ建設シ、以テ國力ノ根抵ニ培ムコトヲ期ス

## 目次

- 一、東京産業報國會ノ發展
  - (一)組織狀況……………(一)
  - (二)産報青年隊ノ結成……………(二)
  - (三)東京産業報國會ノ現勢……………(三)
- 二、東京産業報國會ノ事業計劃……………(四)
- 三、東京産業報國會ノ豫算及決算……………(五)
- 四、東京地方産業報國會結成一周年記念總會狀況……………(六)
- 五、東京地方産業報國會ノ改組
  - (一)東京産業報國會々則……………(七)
  - (二)東京産業報國會支部規程……………(八)
  - (三)東京産業報國會々費規程……………(九)
- 六、産業報國精神ノ普及徹底
  - (一)講演會ノ開催……………(一〇)
  - (二)講習會ノ開催……………(一一)
  - (三)指導資料ノ發行……………(一二)
  - (四)機關紙ノ發行……………(一三)
  - (五)紀元二千六百年奉祝後奉公祈禱大會詔書御奉讀拜禮並同大會ニ代表者派遣……………(一四)
  - (六)紀元二千六百年紀元節ニ賜リタル詔書寫ノ第二回頒布……………(一五)
  - (七)紀元二千六百年奉祝式典並奉祝行事ノ實施……………(一六)
  - (八)紀元節ニ於ケル奉祝實施並建國祭參加……………(一七)
  - (九)紀元二千六百年記念宮城外苑整備勤勞奉仕ノ實施……………(一八)
  - (十)伊勢神宮權原神宮畝傍御陵等拜禮行ノ實施……………(一九)

509.19  
T046

目次

一、東京産業報國會ノ發展

(一)組織狀況

(二)産報青年隊ノ結成

(三)東京産業報國會ノ現勢

二、東京産業報國會ノ事業計劃

三、東京産業報國會ノ豫算及決算

四、東京地方産業報國會結成一周年記念總會狀況

五、東京地方産業報國會ノ改組

(一)東京産業報國會々則

(二)東京産業報國會支部規程

(三)東京産業報國會々費規程

六、産業報國精神ノ普及徹底

(一)講演會ノ開催

(二)講習會ノ開催

(三)指導資料ノ發行

(四)機關紙ノ發行

(五)紀元二千六百年奉祝後奉公祈誓大會詔書御奉讀拜聴並同大會ニ代表者派遣

(六)紀元二千六百年紀元節ニ賜リタル詔書寫ノ第二回頒布

(七)紀元二千六百年奉祝式典並奉祝行事ノ實施

(八)紀元節ニ於ケル奉祝實施並建國祭參加

(九)紀元二千六百年記念宮城外苑整備勸勞奉仕ノ實施

(十)伊勢神宮權原神宮誠傍御陵參拜旅行ノ實施



- (十一) 日獨伊三國同盟締結ニ際シ賜リタル詔書奉戴式舉行並大政翼贊三國結盟國民大會參加……………(四八)
- (十二) 時艱克服産業報國大祈願式典並記念動員大會舉行……………(四九)
- (十三) 一千字産報解説懸賞募集……………(五〇)
- (十四) 漢詩和歌レコード製作配布……………(五一)
- (十五) 産業殉職者慰靈祭執行……………(五二)

**七、産報道場ノ建設**

**八、生産力擴充並國策遂行ヘノ協力**

- (一) 防諜週間ノ實施……………(六一)
- (二) 戰時食糧報國運動ノ實施……………(六二)
- (三) 生産力擴充ポスター圖案懸賞募集……………(六三)
- (四) 交通道德強調週間實施……………(六四)
- (五) 貯蓄ノ獎勵……………(六五)

**九、福利厚生施設**

- (一) 勞務者用必需品ノ配給……………(六六)
- (二) 海ノ健康村開設……………(六七)
- (三) 産業體育大會ノ舉行……………(六八)
- (四) 工場體育巡回指導……………(六九)
- (五) 産業體育指導者講習……………(七〇)
- (六) 工場食改善巡回指導……………(七一)
- (七) 修養慰安娛樂……………(七二)

**十、東京産業報國會各支部活動狀況**

附 錄 東京産業報國會役員名簿……………(七三)

**東京産業報國會運動概要 (昭和十五年度)** 自昭和十五年七月一日起至昭和十六年六月三十日

**東京産業報國會ノ發展**

**一組 總 狀 況**

支那事變勃發以來、國體ノ本義ニ則ル皇國産業ノ使命ニ對スル自覺ガ漸次昂マリ、昭和十三年二月財團法人協調會内ニ時局籌策委員會ガ設置サレ、朝野ノ權威者ガ集マリ、時局下産業人ノ使命達成ニ就テ、慎重審議ノ結果、各企業内ニ産業報國會ノ組織ヲ勸奨スルコトナリ、續々トシテ産業報國會ノ設置ヲ見タリ。越ヘテ七月、産業勞働界有識者ノ熱心ナル努力ト主務官廳タル厚生省及ヒ内務省ノ配慮ニ依リ、推進機關トシテ産業報國聯盟ガ結成サレ、着々本運動ヲ促進サレ、更ニ政府ノ積極的指導ニ依リ、本運動ハ急激ナル發展ヲ來セリ。斯クテ、東京地方ニ於テモ、政府ノ此ノ方針ニ則ル警視廳當局ノ熱心ナル斡旋勸奨ト工場事業場方面ノ自覺トニ依リ、漸次産業報國會ノ結成ヲ見、昭和十四年九月二十一日遂ニ東京地方産業報國聯合會ヲ結成シ、同時ニ各警察署管轄區域毎ニ地域別産業報國聯合會ヲ結成スルコト、ナレリ。併シ乍ラ、當時結成サレタル産業報國會數ハ勤カニ二千餘ニシテ、其ノ會員數ハ四十萬人ヲ數ヘタルニ過ギザリシガ、爾來産業人ニ産業報國精神漸ク浸透シ、茲ニ本運動ハ急激ナル發展ヲ示シ、現在産業報國會數ハ、實ニ一萬六千餘ニ達シ、其ノ會員數ハ九十六萬餘ヲ算スルガ如キ飛躍的進展ヲ來シ、殆ンド全工場事業場ニ産業報國會ノ結成ヲ見、従業員十名以下ノ小規模工場事業場ニ至ルマデ合同シテ産業報國會ヲ結成スル等、事業一家、産業報國ノ精神ハ漸ク全産業人ニ普及徹底

セントスル情勢ニ在リ。然ルニ我が國ハ益々未曾有ノ非常時局ニ當面シ、今ヤ東亞新秩序建設ノ曠古ノ大業完遂ノ爲ニハ高度國防國家體制確立ノ要緊切ナルモノアリ。サレバ、政府ニ於テハ、此ノ急ニ應ゼンガ爲、國內新體制樹立運動ヲ急速ニ展開サレタリ。茲ニ於テカ新體制ノ一翼トシテノ勤勞新體制ヲ目標トセル産業報國運動ニ於テモ、全國ノ産業報國會ヲ包括シタル統制指導組織トシテノ中央機構設置ノ必要ヲ痛感スルニ至リ、官民協力、慎重審議ノ結果、昭和十五年十一月二十三日、遂ニ大日本産業報國會ノ結成ヲ見タリ。其ノ結果、東京地方産業報國聯合會ハ其ノ下部組織ニ編入サレ、東京産業報國會ト改稱シ、而シテ從來ノ地域別聯合會ハ東京産業報國會支部ニ改組スルコト、ナリタルヲ以テ、本會ハ屢次ノ役員會ノ議ニ諮リ、其ノ決定ニ依リ、昭和十六年四月一日ヨリ、新組織ノ不ニ活動中ナリ。

而シテ之ヨリ前、東京工場協會ハ、昭和五年九月東京府下ニ於ケル工場主ヲ以テ創立セラレ、爾來十有餘年ノ久キニ互リ、工場ニ於ケル災害防止、福利厚生等ノ事業ヲ經營シ、偉大ナル功績ヲ舉ゲ來リタルガ、今回大日本産業報國會ノ結成ニ當リ、之等ノ事業ヲ産業報國運動ノ事業ニ攝取シテ、本運動ノ充實強化發展ヲ圖ルコト、ナリタルヲ以テ、東京地方産業報國聯合會及ビ東京工場協會ノ兩關係者ノ合議ニ依リ、一面東京地方産業報國聯合會ノ屢次ノ役員會ノ議ニ附シ、其ノ決定ニ依リ、昭和十六年四月一日、本會ノ改組ト同時ニ之ヲ統合セリ。

(二) 産報青年隊ノ結成

支那事變勃發以來青少年ニシテ産業ニ從來スルモノ激増シ、日本産業ノ中樞ヲナスニ至リタルヲ以テ、之等青少年ノ生活ヲ指導シ、皇國青少年タルノ矜持ヲ與ヘ、産業報國精神ヲ徹底セシメ、産業報國運動ノ突撃隊トシテ其ノ推進力ヲラシメン爲メ、昭和十六年三月三日之方組織ニ關シ厚生省ヨリ各府縣長官宛通牒ヲ發セラレ、二十五歳以下ノ産業報國會員五十人以上ヲ有スル單位産業報國會ニ於テハ之ヲ組織スベキモノトセラレ、尙五十人ニ充タザルモノト雖モ實情ニ依リ組織スルコト、セラレタリ。

サレバ東京産業報國會ニ於テハ右趣旨ニ基キ其ノ組織ニ着手シタリ。而シテ本會ノ設置見込概數ハ約七百青年隊ニシテ其ノ隊員數二十萬人ナリシ處、同年七月末現在ニ於テ既ニ四百五隊、其ノ隊員數實ニ八萬三千六百十人ノ組織ヲ完了スルニ至レリ。本會ハ之ニ對スル指導方針トシテ一、産業報國精神ノ趣旨徹底二、文化厚生運動ノ徹底三、國防意識ノ昂揚ニ主眼ヲ置キ、各種具體的指導ヲ實施シツ、アリ。

(三) 東京産業報國會現勢

(昭和十六年六月末現在)

支部別	會數	會員數	支部別	會數	會員數
麴町	六〇	三、七二八	愛宕	一八六	一五、七二五
丸の内	四二	二一、五一四	三田	四一四	二三、五八五
錦町	一四二	八、四三三	高輪	二〇三	九、四三二
西神田	一〇三	五、九三〇	烏居坂	二六一	五、八八六
萬世橋	一一八	九、五六一	六本木	三九	一、九六二
久松	三五	一、七四二	表町	三八	三、〇一一
堀留	三五	六、一〇一	青山	一五	五、一〇
新堀橋	六五	三、三九九	四谷	二五	四、六七七
築地	一四二	一〇、八六四	神樂坂	四四	三、〇五七
京橋	一七七	七、四一九	早稲田	七二	三、五〇七
月島	一〇七	一〇、三九八	富坂	八八	七、〇四四

東大	大荏	大荏	大品	洲扇	扇平	首厩	太兩	兩菊	藏日	象谷	坂上	駒本	大富										
調	布	森	原	崎	井	川	崎	橋	野	間	橋	平	國	橋	前	堤	濁	中	本	野	近	士	塚
一五〇	五三一	五七六	四八三	二七九	三二一	一九二	二二二	一三九	二六九	三一八	一五七	二六一	一一七	七九	一二八	五四	二四	一〇五	一二〇	五八	四〇	八七	
四、四六〇	三三、三六九	一一、七九六	二四、一九四	一八、一五九	二五、六九六	八、六五三	七、九五二	六、〇九四	九、一一八	一五、七九六	一八、四〇一	四、三二九	五、八三七	六、四二四	三、四二九	七、〇三七	一〇、八八〇	二、九二二	二、二四三	三、二九二			
尾赤	王練	板瀧	目池	巢荻	杉野	中戸	淀代	原澁	碑目	玉世	蒲												
久羽	子馬	橋川	白袋	鴨窪	並方	野塚	橋木	宿谷	谷黑	川川	谷田												
二八〇	一八二	九〇	七〇一	一六八	一〇一	一〇〇	一〇一	三八	五七	四三	一二三	一五九	五三	一一	一四七	二二九	二二二	六五	八六	一、六三二			
一一、二七八	一〇、一四八	二、八五〇	三三、八九四	一一、一六二	七、五九九	五、九六九	六、六一八	五、七五六	二、八六八	一、三五六	四、五三三	六、八九九	六、七三一	七、五〇六	三、六五〇	一三、八七〇	五、四二七	九、二八五	二、〇八三	六、一八四	九三、三二二		

東小	砂龜	葛吾	寺西	千日	三南
京松	川町	戶飾	島井	住里	島住
水	上	一〇六	二八六	四六六	三六〇
三三七	七二五	二四九	三二二	一八二	二三五
三〇五	六、三四六	一一、一〇三	六、五九七	一一、〇四〇	二二、八八八
二〇、五八七	二二、四六〇	一八、五二四	二二、八八八	一一、〇四〇	二二、八八八
二二、一五四	三三、一七五	一一、一〇一	五、〇六〇	一、〇六〇	五、〇六〇

八	府	田	青	五
玉	中	無	梅	日
子	田	市	計	會
二五三	一八	一一〇	九一	一二六
一六、四二一	八五〇	三二、七八二	二一、一九五	四、六七五
一六、四二一	八五〇	三二、七八二	二一、一九五	四、六七五
一六、四二一	八五〇	三二、七八二	二一、一九五	四、六七五

二 東京産業報國會ノ事業計劃

東京地方産業報國聯合會結成一年間ノ本運動ノ實績ハ眞ニ刮目ニ値スベキモノアリタルヲ以テ、本年度ノ事業計劃ニ際シテハ、更ニ慎重ナル檢討ヲ加ヘ、殊ニ本年ハ皇紀二千六百年ノ光輝アル歲ヲ迎ヘタルヲ以テ、各種ノ行事、事業ヲ通シテ産業報國精神ノ昂揚ニ重點ヲ置キ、左ノ如キ計劃ヲ樹立セリ。

昭和十五年東京地方産業報國聯合會事業計劃

イ 産業報國精神ノ普及徹底ニ關スル事項

- 産業報國運動ニ關聯スル講演會、講習會、研究會等ノ開催
- 産業報國精神普及ノ爲各種印刷物ノ刊行書籍ノ配布
- 皇紀二千六百年紀元節ニ賜ハリタル詔書謹寫頒布及奉戴方徹底
- 皇紀二千六百年ヲ記念スベキ産業報國行事ノ立案實施
- 興亞奉公日ノ行事企劃
- 産業報國祭(假稱)ノ研究準備
- 戰歿並ニ殉職産業人ノ合同慰靈祭ノ舉行
- 伊勢神宮、橿原神宮祈願巡拜ノ實施又ハ援助
- 宮城遙拜、神宮祈願、神社參拜及朝禮勵行ノ申合及獎勵
- 産業報國會ノ設置獎勵
- 關係官廳團體トノ研究懇談會開催
- 産業報國會及地域別聯合會ノ指導連絡ニ關スル事項
  - 地域別聯合會會長會議(評議員會)ノ開催
  - 理事會、幹事會ノ開催
  - 産業報國會ノ運營並地域別聯合會ノ活動狀況ノ調査
  - 地域別聯合會ノ事業報告研究會ノ開催

- 産業報國會運營指針(指導資料)ノ制定實施及印刷配布
- 關係官廳團體トノ共同研究會開催
- 地域別聯合會及産業報國會ヘノ講師指導員ノ派遣
- 各種講習會ノ受講者ノ繼續的研究會ノ開催

#### ハ 産業經濟其ノ他國策遂行ヘノ協力ニ關スル事項

- 國民精神總動員ヘノ協力實踐申合
- 經濟統制ヘノ協力實踐申合
- 生活刷新、消費節約貯蓄獎勵徹底
- 資源愛護、廢品回收獎勵徹底
- 技術、能率、作業改善等ニ關スル講習會研究會及競技會ノ開催及印刷物刊行
- 生産擴充、輸出増進、物價調整、犠牲産業對策ニ關スル研究又ハ申合
- 見習工及技術者共同養成研究
- 専門委員ノ委囑

- ニ 産業労働問題調査研究ニ關スル事項
  - 産業報國會機構及運營ノ整備充實



産業報國懇談會及勞資間意思疎通ノ運営徹底

労働紛争議發生要因ノ探究ト之ヲ豫防對策樹立

産業報國會ニ於ケル福利共濟事業ノ研究

安全運動ニ關スル調査實施ノ徹底

勞務需給ニ關スル調査ト關係官廳團體トノ提携

工場事業場ニ於ケル作業必需物資配給ニ關スル調査研究及對策樹立

厚生體位向上保健衛生施設ニ關スル研究

勞務者移動防止方策研究

賃金制度ノ本質的研究

専門委員ノ委囑

産業報國運動法制化ノ研究

ホ 産業報國會ノ指導養成ニ關スル事項

産業報國會長講習會、研究会ノ開催

地域別聯合會役員ノ講習會、研究会ノ開催

産業報國會役員ノ講習會開催

産業別指導者講習會開催

巡回講習

産業報國會運営實踐體驗發表研究会開催

勞務委員ノ委囑及講習會開催

各種講習會開催

産業報國道場建設企劃

ヘ 講習會研究会懇談會等ノ關係

講師ノ斡旋

關係官廳團體トノ研究懇談會ノ開催

其ノ他(第一項及第五項ト併行シテ行フ)

ト 産業報國會及其會員ノ表彰

優良産業報國會ノ視察見學

表彰方法研究及實施

チ 會報其ノ他印刷物ノ刊行

聯合會機關紙ノ充實擴張

教育訓練其ノ他本運動徹底上必要ナル印刷物ノ刊行及書籍ノ配布

リ 其ノ他ノ事業

勞務委員専門委員ノ委囑  
工場事業場ヲ對象トスル既存各種團體トノ統合研究  
協力團體トノ連絡研究

三 東京産業報國會ノ豫算及決算

(一) 昭和十五年度東京地方産業報國聯合會歲入歲出決算

歲入

- 第一款 會費 金九萬壹千四百八拾壹圓七拾九錢
- 第一項 會費 金九萬壹千四百八拾壹圓七拾九錢
- 第一目 會費 金九萬壹千四百八拾壹圓七拾九錢
- 第二款 補助金 金四萬六千五百貳拾八圓
- 第一項 補助金 金四萬六千五百貳拾八圓
- 第一目 東京府補助金 金四萬圓

第二款 大日本産業報國會補助金 金六千五百貳拾八圓

第三款 寄附金 零

第一項 寄附金 零

第一目 寄附金 零

第四款 繰越金 金貳萬八千九百貳拾四圓壹錢

第一項 繰越金 金貳萬八千九百貳拾四圓壹錢

第一目 繰越金 金貳萬八千九百貳拾四圓壹錢

第五款 雜收入 金貳千九百五拾八圓四錢

第一項 雜收入 金貳千九百五拾八圓四錢

第一目 雜收入 金貳千九百五拾八圓四錢

歲入計 拾六萬九千八百九拾壹圓八拾四錢

歲出

第一款 事務費 金參萬六千七百六拾六圓四拾四錢

第一項 給與 金壹萬六千九百貳圓五拾九錢

第一目 給料 金壹萬貳千五百五拾圓五拾九錢

第二目 賞與 金四千七百五拾貳圓

第二項 雜給 金壹萬貳千七百五拾壹圓七拾壹錢

第一目 雜給 金貳千拾七圓九拾五錢

第二目 旅費 金參千五百壹圓七拾參錢

第三目 手当 金四千參百貳圓參錢

第四目 職員退職積立金 金貳千九百圓

第三項 需用費 金七千百拾貳圓拾四錢

第一目 備品費 金貳千四百參拾九圓拾貳錢

第二目 消耗費 金六百七拾貳圓壹錢

第三目 圖書購入費 金四百五拾七圓四拾六錢

第四目 印刷費 金壹千參百五圓參拾五錢

第五目 通信運搬費 金七百五拾貳圓五拾七錢

第六目 雜費 金壹千四百八拾五圓六拾參錢

第二款 會議費 金四千九百四拾九圓八拾貳錢

第一項 會議費 金四千九百四拾九圓八拾貳錢

第一目 總會費 金參千七百四拾壹圓四拾五錢

第二目 役員會費 金壹千貳百八圓參拾七錢

第三目 雜費 零

第三款 事業費 金九萬貳百八圓五拾九錢

第一項 事業費 金九萬貳百八圓五拾九錢

第一目 調查研究費 金五千九百拾參圓五拾五錢

第二目 講習會費 金壹萬參千五百拾四圓拾七錢

第三目 講演會費 金五千六貳百圓

第四目 指導費 金參萬四千五百五拾七圓八拾參錢

第五目 印刷費 金參萬壹千參百八拾壹圓四錢

第六目 雜費 零

第四款 豫備費 零

第一項 豫備費 零

第一目 豫備費 零

歲出計 金拾參萬壹千九百貳拾四圓八拾五錢

歲入歲出差引額 金參萬七千九百六拾六圓九拾九錢

金參萬七千九百六拾六圓九拾九錢 昭和十六年度へ繰越

(二) 昭和十六年度東京產業報國會歲入歲出豫算

歳入ノ部

科	目	豫算高	備考
第一款 會費	第一目 會費	八七〇,〇〇〇.〇〇	會費一人三付一月男子拾錢女子七錢八拾萬人分 (男子五五萬人分 女子二五萬人分)
	第二目 補助金	二五〇,二一八.一五	
第二款 補助金	第一目 會補助金	八七〇,〇〇〇.〇〇	一、補助金 (五六、二六五.〇〇) 二、會費還附金 (四三、九五三.一五)
第三款 寄附金	第一目 東京府補助金	一〇〇,〇〇〇.〇〇	
第四款 歳越金	第一目 歳越金	五,〇〇〇.〇〇	
第五款 雜收入	第一目 雑收入	二九四,四四〇.〇〇	
第六款 歳入合計		一,四一九,六五九.一五	

歳出ノ部

科	目	豫算高	備考
第一款 事務費	第一目 給料	六四,八〇〇.〇〇	主指主 事專 事員補手記 五名(月)二〇〇〇〇 一名(月)一〇〇〇〇 五名(月)七〇〇〇 五名(月)五〇〇〇
	第二目 賞與	一六,二〇〇.〇〇	
第二款 雑收入	第一目 過年度會費	一,〇〇〇.〇〇	海浴場會入園料一人五錢三萬人 水浴場會入園料一人五錢四萬人 映畫會會員會費一人五錢四萬人 觀劇會會員會費一人五錢四萬人 相撲會會員會費一人五錢四萬人 厚生會會員會費一人五錢四萬人 汽生會會員會費一人五錢四萬人 汽生會講習會費一人〇圓七角八分 アセチレン熔接士講習會費一人二圓七角八分 工場事務擔當者實務講習會費一人七圓四角四分
第三款 歳入合計		一,四一九,六五九.一五	

第二項雜給		
第一目雜給	四一、三七〇・〇〇	給仕二名(月三〇圓)司廚夫四名(日給二、五〇錢)小使二名(日給一、五〇錢)
第二目旅費	一七、〇四〇・〇〇	主事、指導員、主事補、書記、履出發旅費
第三目手當	一三、五三〇・〇〇	囑託手當(一、〇〇〇)月一〇〇圓(一人)夜勤及過勤手當(一日五〇錢)一人一月五日、五圓
第四目職員退職積立金	五、四〇〇・〇〇	
第三項需要費		
第一目備品費	二〇、八七〇・〇〇	事務用具諸費
第二目消耗品費	四、〇〇〇・〇〇	印刷用原紙、インク用紙、封筒、其ノ他
第三目圖書購入費	六、〇〇〇・〇〇	產業報國運動事務參考資料備付費
第四目印刷費	一、五〇〇・〇〇	諸調査用、招集狀其他印刷費
第五目通信運搬費	五、〇〇〇・〇〇	郵稅、電話使用料、切手購入、其ノ他
第六目雜費	三、〇〇〇・〇〇	雜費
第二款會議費		
第一目總會費	一、三七〇・〇〇	雜費
第二目總會費	五、四〇〇・〇〇	會場借入設備諸費
第三目總會費	五、四〇〇・〇〇	
第四目總會費	二、〇〇〇・〇〇	

第三項事業費		
第一目指導費	五八、八三五・〇〇	(6) (5) (4) (3) (2) (1)
第二目啓發宣傳費	一三〇、九二〇・〇〇	庭野相弓武 入事設海險
第三目厚生事業費	三五四、七四〇・〇〇	球球撲道道 圖料水浴施
第四目雜費	四〇〇・〇〇	大大大大 會會會會
第三款事業費		
第一目役員會費	三、〇〇〇・〇〇	評議員會、理事會、幹事會、顧問會、會場借入諸費
第二目雜費	七四五、四八六・六五	
第三目雜費	七四五、四八六・六五	

(4) (3) (2) (1)

行事指導者養成費 二八、九三二・五〇  
 勞務者役員講習費 一八、〇八八・〇〇  
 青年指導者役員講習費 一四、八八八・〇〇  
 演講者役員講習費 一四、八八八・〇〇  
 青年講習會費 一四、〇〇〇・〇〇  
 汽七士講習會費 七、七四一・〇〇  
 工廠七士講習會費 七、六〇〇・〇〇  
 工場事務擔當者講習會費 六、八〇〇・〇〇  
 機關紙 每月二〇萬部 六萬圓  
 指導資料 一回二萬部 六萬圓  
 印刷製費 三〇〇圓 一回一萬五千枚 二萬圓  
 其他印刷物 五、〇〇〇圓

(1) 庭野相弓武 入事設海險 球球撲道道 圖料水浴施 大大大大 會會會會

一七

歲 出 合 計	第一項 豫備費	第一項 大日本產業報國會々費	第四款 大日本產業報國會々費	第六目 地域別聯合會事業補助費	第七目 各種國策協力並調査研究費	第八目 產報道場維持費	第九目 雜費
	第一目 豫備費	第一目 大日本產業報國會々費	第一目 大日本產業報國會々費	第一目 大日本產業報國會々費	第一目 大日本產業報國會々費	第一目 大日本產業報國會々費	第一目 大日本產業報國會々費
一、四一九、六五九・一五	八六、〇〇一・〇〇	八六、〇〇一・〇〇	四三九、五三一・五〇	四三九、五三一・五〇	五、五〇〇・〇〇	七、八〇〇・〇〇	五、八八六・六五
						維持費月五〇〇四(六、〇〇〇圓) 火災保險費一、八〇〇(二〇萬圓ニ對スル保險)	

第五目 表彰並慰靈祭費	第四目 勤勞文化指導獎	第五目 表彰並慰靈祭費	第四目 勤勞文化指導獎
六三、七三〇・〇〇	一〇、九七五・〇〇	六三、七三〇・〇〇	一〇、九七五・〇〇
(3)(2)(1) 產業優良會表彰費 優年勤績者表彰費 有功者表彰費 慰靈祭費	(3)(2)(1) 勞務演習會費 勞務演習會費 勞務演習會費 勞務演習會費	(3)(2)(1) 勞務演習會費 勞務演習會費 勞務演習會費 勞務演習會費	(3)(2)(1) 勞務演習會費 勞務演習會費 勞務演習會費 勞務演習會費
五二〇、八〇〇・〇〇	一〇、九七五・〇〇	五二〇、八〇〇・〇〇	一〇、九七五・〇〇

#### 四 東京地方產業報國聯合會結成一周年記念總會狀況

昭和十五年九月二十一日午後一時ヨリ、日比谷公會堂ニ於テ、本會結成一周年記念總會ヲ開催シタルニ、來賓厚生大臣代理、厚生次官兒玉政竹氏外三百八十餘名、會員三千餘名(地域別聯合會役員全部及其他會員)ニシテ、定刻開會シ、國歌齊唱、宮城遙拜、戰歿將士ノ英靈並皇軍將士ニ對スル感謝默禱、紀元二千六百年紀元節ニ賜リタル詔書奉讀、會長挨拶アリタル後議事ニ移リ、昭和十四年度事業及決算並昭和十五年度豫算報告ヲナシ、滿場一致ノ承認ヲ得、次テ産報道場建設ノ件ヲ提議シ、之レ又會員ノ賛成ヲ得、更ニ別記ノ宣誓朗讀ヲ經テ、内閣總理大臣近衛文麿閣下代讀、厚生大臣、産業報國聯盟會長、國民精神總動員本部長、東京市長ノ祝辭アリ、最後ニ會長ノ發聲ニテ聖壽萬歲ヲ奉唱シテ極メテ嚴肅ニシテ盛大裡ニ閉會セリ。

尙閉會後本聯合會顧問吉田茂閣下ノ記念講演及餘興トシテ映畫ヲ催シ、午後四時散會セリ。

#### 宣 誓

- 一、我等ハ茲ニ紀元二千六百年ヲ迎ヘ益々  
皇國産業ノ本義ヲ宣揚シ事業一體産業報國以テ 大御心ニ副ヒ奉ラムコトヲ期ス
- 一、我等ハ萬民翼賛ノ新體制ニ即應シテ新産業秩序ヲ確立シ職分奉公以テ高度國防國家建設ニ邁進センコトヲ期ス

- 一、我等ハ實踐躬行一意産業報國會ノ整備充實ヲ圖リ上意下達下意上達融合一體以テ生産擴充ノ實ヲ舉ケンコトヲ期ス

右宣誓ス

昭和十五年九月二十一日

東京地方産業報國聯合會  
結成一周年記念總會

#### 五 東京地方産業報國聯合會ノ改組

高度國防國家體制ノ完成、國家生産力ノ増強ハ國民勤勞ノ充實發揚ヲ基調トスルモノナルニ鑑ミラレ、政府ニ於テハ夙ニ之ニ備ヘンガ爲、新産業労働體制ヲ樹立シテ皇國産業ノ本質ト皇國産業人ノ眞使命トニ立脚シタル産業報國精神ヲ確立シ、其ノ全機能ヲ振興發揚シ、以テ大業ヲ翼賛シ奉ラントシテ組織的一大國民運動トシテ産業報國運動ヲ積極的ニ指導セラレ、他面、産業人モ亦、漸ク産業ノ國家的使命ヲ認識自覺シタル結果、本運動ハ急速ナル進展ヲ示スニ至レリ。東京地方ニ於テハ警視廳關係課及ビ各警察署ノ異常ナル努力ニ依リ、既ニ昭和十四年九月東京地方産業報國聯合會ヲ結成シテ本運動ノ指導連絡ニ執掌シ來リタル所ナリ。然ルニ、時局ハ愈々緊迫ノ度ヲ加ヘ、他面國內新體制樹立運動ハ急激ニ進展シ、茲ニ我が國ハ勤勞新體制確立ノ急ニ迫ラレタルヲ以テ、産業報國運動ニ於テモ全國ノ産業報國會ヲ統轄指導スベキ中央機構設置ノ必要ヲ生ジ、其ノ機關トシテ昭和十五年十一月二十三日遂ニ大日本産業報國會ノ結成ヲ見タリ。斯クテ全國ノ各産業報國會ハ悉ク大日本産業報國會ノ組織下ニ包攝セラレ、各道府縣ニ中間機關トシテ夫々道府縣産業報國會ヲ組織スルコ

ト、ナリタルヲ以テ、東京地方産業報國聯合會ハ東京産業報國會ニ、從來ノ地域別産業報國聯合會ハ東京産業報國會支部ニ改組スルコト、ナレリ。サレバ本會ハ本會ノ改組ト同時ニ東京工場協會ヲモ統合スル方針ノ下ニ、屢次ノ役員會ヲ開催シ、東京産業報國會々則、東京産業報國會支部規程、東京産業報國會々費規程並ニ工場協會統合ニ關ル事件ヲ慎重審議ノ上、三月二十九日午後一時ヨリ警視廳第一會議室ニ於テ評議員會ヲ開催、之ヲ附議シ、其ノ最後の決定ニ依リ四月一日ヨリ東京地方産業報國聯合會ヲ東京産業報國會ニ改組シ、同時ニ東京工場協會ヲ本會ニ統合セリ。

今東京産業報國會々則、東京産業報國會支部規程並ニ東京産業報國會々費規程ヲ示セバ左ノ如シ。

(一) 東京産業報國會々則

- 第一條 本會ハ東京産業報國會ト稱ス
- 第二條 本會ハ警視廳管下ニ於ケル産業報國會ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第三條 本會ハ事務所ヲ警視廳内ニ置ク
- 第四條 本會ハ關係官廳其ノ他ト協力シテ大日本産業報國會々則第二十一條ニ依リ警視廳管下ニ於ケル産業報國運動ヲ實施統轄指導シ綱領ノ實現ヲ斯スルヲ以テ目的トス
- 第五條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ
  - 一、産業報國精神ノ昂揚ニ關スル事項
  - 二、産業報國會々員ノ教育訓練ニ關スル事項
  - 三、産業報國運動ノ指導者養成ニ關スル事項

- 四、各支部並ニ産業報國會ノ運営及事業ノ指導ニ關スル事項
  - 五、技術ノ向上其ノ他生産ノ高度能率發揮ニ關スル事項
  - 六、福利厚生生活指導及勤勞文化ノ向上ニ關スル事項
  - 七、産業労働ノ調査研究ニ關スル事項
  - 八、勞務統制ヘノ協力ニ關スル事項
  - 九、一般國策ヘノ協力ニ關スル事項
  - 一〇、會報其ノ他印刷物ノ刊行ニ關スル事項
  - 一一、其ノ他本會ノ目的達成上必要ナル事項
- 第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長	三名
副會長	三名
理事	若干名(内若干名ヲ常任トス)
監事	若干名
評議員	若干名
幹事	若干名(内若干名ヲ常任トス)

第七條 本會ニ顧問ヲ置クコトヲ得

第八條 會長ハ大日本産業報國會々則第二十一條第二項ノ規定ニ依リ警視總監ノ職ニ在ル者之ニ當ル



副會長其ノ他ノ役員並ニ顧問ハ關係官吏産業報國會關係者及學識經驗アル者ノ中ヨリ會長之ヲ委囑ス但評議員ハ支部長又ハ之ニ代ルベキ者ニ對シ之ヲ委囑ス

第九條

會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

理事ハ理事會ヲ構成シ會長ノ旨ヲ承ケ重要會務ヲ掌理ス

監事ハ會ノ會計ヲ監査ス

評議員ハ評議員會ヲ構成シ重要會務ヲ評議シ支部トノ連絡ニ任ス

幹事ハ會長ノ旨ヲ承ケ一般會務ヲ處理ス

顧問ハ重要會務ニ付會長ノ諮問ニ應ジ又ハ意見ヲ述ブルモノトス

第十條

役員及顧問ノ任期ハ二年トス 但シ重任ヲ妨ゲズ

官吏ニシテ役員タルモノノ任期ハ其ノ在職期間トス 補缺ニ依リ就任シタル役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

役員ハ任期滿了後ト雖モ後任者ノ就任スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス

第十一條

會議ヲ分チテ總會評議員會及理事會トス 總會ハ毎年一回會長之ヲ招集ス 但シ會長必要アリト認メタルトキハ臨時ニ之ヲ招集スルコトヲ得

評議員會及理事會ハ必要ニ應ジ會長之ヲ招集ス

第十二條

會議ノ議長ハ會長之ニ當ル 會長事故アルトキハ會長ノ指名シタル副會長之ヲ代理ス

第十三條

總會ニ附議スベキ事項左ノ如シ

一、歲入歲出豫算ニ關スル事項

一、歲入歲出決算ニ關スル事項

一、會則ノ變更ニ關スル事項

一、其ノ他會長ニ於テ必要ト認メタル事項

第十四條

理事會ニ附議スベキ事項左ノ如シ

一、事業計畫其他重要會務ニ關スル事項

一、總會及評議員會ニ附議スベキ事項

一、其他會長ニ於テ必要ト認メタル事項

第十五條

評議員會ニ附議スベキ事項左ノ如シ

一、總會ニ附議スベキ事項

一、其他會長ニ於テ必要ト認メタル事項

評議員會ハ總會ニ附議スベキ事項ニシテ急施ヲ要スルモノノ代決ヲ爲スコトヲ得

第十六條

議事ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十七條

本會ニ事務局ヲ設ケ必要ナル職員ヲ置ク事務局ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條

本會ハ必要ナル産業部門ニ産業別部會ヲ置クコトヲ得 産業別部會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十九條 本會ハ各警察署管下ニ於ケル産業報國運動ヲ實施統轄指導スル爲支部ヲ置ク 但シ狀況ニ依リ其ノ區域ヲ變更スルコトヲ得支部ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二十條 本會ノ經費ハ會費補助金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ 會費ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二十一條 本會ハ總會ノ議ヲ經テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第二十二條 本會ノ會計年度ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ヲ以テ終ル

第二十三條 本則ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ會長別ニ之ヲ定ム

(二) 東京産業報國會支部規程

第一條 本支部ハ東京産業報國會〇〇支部ト稱ス

第二條 本支部ハ〇〇警察署管下ニ於ケル産業報國會ヲ以テ組織ス

第三條 本支部會員タル産業報國會ハ大日本産業報國會並東京産業報國會ノ會員タルコト

第四條 本支部ハ事務所ヲ〇〇警察署(又ハ〇〇)ニ置ク

第五條 本支部ハ關係官廳其他ト協力シテ〇〇警察署管下ニ於ケル産業報國運動ヲ實施統轄指導シ綱領ノ實現ヲ期スルヲ以テ目的トス

第六條 本支部ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一、産業報國精神ノ昂揚ニ關スル事項

二、産業報國會々員ノ教育訓練ニ關スル事項

三、産業報國運動ノ指導者養成ニ關スル事項

四、産業報國會ノ運営及事業ノ指導ニ關スル事項

五、技能ノ向上其他生産ノ高度能率發揮ニ關スル事項

六、福利厚生生活指導及勤勞文化ノ向上ニ關スル事項

七、産業勞働ノ調査研究ニ關スル事項

八、勞務統制ヘノ協力ニ關スル事項

九、一般國策ヘノ協力ニ關スル事項

一〇、會報其他印刷物ノ刊行ニ關スル事項

一一、其他必要ナル事項

第七條 本支部ニ左ノ役員ヲ置ク

名譽支部長	一	名
支部長	一	名
副支部長	若干名	
理事	若干名	
監事	若干名	
顧問	若干名	

第八條 名譽支部長ハ關係警察署長ノ職ニ在ル者ニ對シ東京産業報國會々長之ヲ委囑ス 支部長及副支部長ハ産業報國會關係者中ヨリ會員ノ推薦シタル者ニ對シ東京産業報國會々長之ヲ委囑ス  
理事及監事ハ關係警察署員、産業報國會關係者及學識經驗者中ヨリ支部長之ヲ委囑シ内若干名ヲ常任トス  
顧問ハ關係官吏産業報國會關係者及學識經驗者中ヨリ東京産業報國會々長ノ承認ヲ經テ支部長之ヲ委囑ス

第九條 名譽支部長ハ支部長ヲ補導ス

支部長ハ支部ヲ代表シ會務ヲ總理ス

副支部長ハ支部長ヲ補佐シ支部長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

理事ハ支部長ノ旨ヲ承ケ一般會務ヲ掌理ス

監事ハ支部ノ會計ヲ監査ス

顧問ハ支部長リ諮問ニ應ジ又ハ意見ヲ述ブルモノトス

第十條 役員ノ任期ハ二年トス 但シ重任ヲ妨グズ

官吏ニシテ役員タルモノノ任期ハ其ノ在職期間トス補缺ニヨリ就任シタル役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス役員ハ任期滿了ト雖モ後任者ノ就任スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス

第十一條 會議ヲ分チテ總會及役員會トス

總會ハ毎年一回支部長之ヲ招集ス 但シ支部長必要アリト認ムルトキハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得 役員會ハ必要ニ應ジ支部長之ヲ招集ス

第十二條 會議ノ議長ハ支部長之ニ當ル、支部長事故アルトキハ支部長ノ指名シタル副支部長之ヲ代理ス

第十三條 總會ニ附議スベキ事項左ノ如シ

一、歳入歳出豫算ニ關スル事項

一、歳入歳出決算ニ關スル事項

一、其ノ他支部長ニ於テ必要ト認メタル事項

第十四條 役員會ニ附議スベキ事項左ノ如シ

一、總會ニ附議スベキ事項

一、事業計畫其ノ他重要會務ニ關スル事項

一、其ノ他支部長ニ於テ必要ト認メタル事項

役員會ハ總會ニ附議スベキ事項ニシテ急施ヲ要スルモノノ代決ヲ爲スコトヲ得

第十五條 本支部ハ必要ニ依リ專門部會若クハ專門委員會ヲ置クコトヲ得

專門部會若ハ專門委員會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條 本支部ハ必要ニ依リ事務局ヲ設ケ所要ノ職員ヲ置クコトヲ得

事務局ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十七條 本支部ハ必要ナル區域ニ分會若ハ班ヲ設ケルコトヲ得

分會若クハ班ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 本支部ノ經費ハ會費寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

會費ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

- 第十九條 本支部ハ總會ノ議ヲ經テ特別會計ヲ置クコトヲ得
- 第二十條 本支部ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第二十一條 本規程ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ役員會ノ議ヲ經テ支部長之ヲ定ム

(三) 東京産業報國會々費規程

- 第一條 本會ノ會費ハ各産業報國會之ヲ分擔贖出スルモノトス
- 第二條 會費ハ基礎會員一人ニ付月額男子拾錢女子七錢ノ割合トシ原則トシテ事業主七會員三ノ割合ヲ以テ分擔スルモノトス
- 第三條 會費ハ毎年四期(第一期自四月至六月第二期自七月至九月第三期自十月至十二月第四期自一月至三月)ニ分チ各期第一月中ニ各三ヶ月分ヲ支部ヲ經由ンテ納入スルモノトス
- 前項ノ會費計算ノ基礎トナルベキ會員數ハ前期末日現在ノ數ニ依ル
- 第四條 新タニ結成シタル産業報國會ノ其ノ期ニ於ケル會費ハ結成ノ翌月分ヨリ月割ヲ以テ結成ノ翌月中ニ之ヲ納入スルモノトス
- 前項ノ會費計算ノ基礎トナルベキ會員數ハ結成當日ノ現在數ニ依ル
- 第五條 既納ノ會費ハ之ヲ返戻セズ

附 則

本則ハ昭和十六年四月分ヨリ之ヲ適用ス

六 産業報國精神ノ普及徹底

産業報國運動ノ基調ハ其ノ指導精神ノ普及徹底ニアルヲ以テ、本會ニ於テハ之ニ重點ヲ置キ事業計劃ヲ樹テ、諸種ノ事業ヲ通シテ之ガ普及徹底ヲ圖リタル處ニシテ、産業報國會ノ設置勸奨ニ依リ、工場、事業場ノ殆ド全部ニ其ノ組織ヲ見ルニ至リ、今ヤ都下ノ殆ド全部ノ産業人ハ本會ノ傘下ニ結集シ、産業報國精神ノ普及徹底ノ態勢ヲ整ヘ、漸次浸透ヲ見ツ、アル處ナリ。本會ガ之ニ關シ本年度中實施シタル事業概況ハ左ノ如シ。

(一) 講演會ノ開催

産業報國運動ハ漸次普及徹底ヲ見ツ、アル處ナルモ、時局愈々重大性ヲ加ヘ、一層ノ努力ヲ要スルモノアリ。而シテ、本運動進展ノ基本ハ全産業人ノ熾烈ナル團體ヲ基調トセル道義觀念ノ昂揚ト、之ニ伴フ實踐ヲ期スベキモノナルコト言フ俟タザル所ナリ。

サレバ本會ハ、昭和十五年度事業ノ一トシテ、地域別聯合會ト共同主催ノ下ニ、可及的各方面ニ亙リ、産業報國講演會ヲ開催スルコト、ナシ、産報精神ノ普及徹底ヲ期シタル結果、其開催度數二百七十三回ニ及ビ、多大ノ效果ヲ收メタリ。

(二) 講習會ノ開催

産業報國精神ノ普及徹底ノ爲メ、其ノ指導者講習會ヲ開催シタル處、其ノ度數左記種別ノモノ二十六回ニシテ、其ノ受講人員一千二百四十一名ナリ。

- (一) 事業主講習 六回
- (二) 勞務課長講習 三回
- (三) 勞務者講習 六回
- (四) 技術者講習 三回
- (五) 青年指導者講習 二回
- (六) 本部職員講習 一回
- (七) 支部職員講習 三回
- (八) 親子講習 二回

而シテ今其概況支部役員講習終了者人員及ビ講師ヲ示セバ左ノ如シ

指導者講習會概況

(自昭和十五年九月至同十六年六月末)

回期別	講習會種別	期	間	日數	受講者數	會場
第五回	事業主講習會	昭和十五年	自九月三日至同月五日	三日間	五〇名	金鷄會館
第六回	同	同	自九月十日至同月十二日	同	同	同
第七回	同	同	自九月二十四日至同月二十六日	同	四三名	同
第八回	同	同	自十月七日至同月九日	同	五四名	同

第九回	同	同	自十月二十一日至同月二十三日	同	四六名	同
第十回	勞務者講習會	同	自十月二十九日至同月三十一日	同	四五名	同
第十一回	同	同	自十一月五日至十一月七日	同	五〇名	同
第十二回	勞務課長級講習會	同	自十一月十二日至同月十四日	同	三五名	同
第十三回	勞務者講習會	同	自十一月十八日至同月二十日	同	四三名	金鷄會館
第十四回	地域別聯合會長、副會長講習會	同	自十一月二十五日至同月二十七日	同	三七名	同
第十五回	勞務課長級講習會	同	自十二月二日至同月四日	同	同	同
第十六回	勞務者講習會	同	自十二月十二日至同月十四日	同	四九名	濟美館
第十七回	同	同	自十二月二十二日至同月二十四日	同	五二名	金鷄會館
第十八回	同	昭和十六年	自一月二十九日至同月三十一日	同	同	濟美館
第十九回	同	同	自二月五日至同月七日	同	同	同
第二十回	技術者講習會	同	自二月十九日至同月二十一日	同	四五名	養正館
第二十一回	同	同	自三月六日至同月八日	同	五二名	濟美館
第二十二回	青年指導者講習會	同	自三月十三日至同月十五日	同	同	同
第二十三回	同	同	自三月二十日至同月二十二日	同	五五名	同

支部分	支部分名	顧問	會長	副會長	常任幹事	幹事	其他	合計	日期	人數	地點
第二十四回	同	同	同	同	同	同	同	同	自三月二十七日至同月二十九日	同	同
第二十五回	本部職員講習會	同	同	同	同	同	同	同	自五月七日至同月十日	四日間	同
第二十六回	支部職員講習會	同	同	同	同	同	同	同	自六月五日至同月七日	三日間	同
第二十七回	同	同	同	同	同	同	同	同	自六月十一日至同月十三日	同	同
第二十八回	同	同	同	同	同	同	同	同	自六月十九日至同月二十一日	同	同
第二十九回	親子講習會	同	同	同	同	同	同	同	自六月二十五日至同月二十七日	同	同
第三十回	同	同	同	同	同	同	同	同	自六月二十六日至同月二十八日	同	同

支部役員講習終了者數 (昭和十六年六月末現在)

支部分名	顧問	會長	副會長	常任幹事	幹事	其他	合計
支部分名							
丸の内町	1	1	1	1	5	6	14
錦町	1	1	1	1	5	6	17
西神田	1	1	1	1	5	6	17
萬世橋	1	1	1	1	5	6	17
久松	1	1	1	1	5	6	17
堀留	1	1	1	1	5	6	17

支部分名	顧問	會長	副會長	常任幹事	幹事	其他	合計
品川	1	1	1	1	5	6	14
大井町	1	1	1	1	5	6	14
大森	1	1	1	1	5	6	14
東浦	1	1	1	1	5	6	14
蒲田	1	1	1	1	5	6	14
世田谷	1	1	1	1	5	6	14
目黒	1	1	1	1	5	6	14
神奈川	1	1	1	1	5	6	14
神奈川	1	1	1	1	5	6	14
神奈川	1	1	1	1	5	6	14
神奈川	1	1	1	1	5	6	14
神奈川	1	1	1	1	5	6	14
神奈川	1	1	1	1	5	6	14
神奈川	1	1	1	1	5	6	14
神奈川	1	1	1	1	5	6	14
神奈川	1	1	1	1	5	6	14
神奈川	1	1	1	1	5	6	14
神奈川	1	1	1	1	5	6	14
神奈川	1	1	1	1	5	6	14
神奈川	1	1	1	1	5	6	14

三五

Table with columns for names and numbers. Names include 寺島, 西井, 千住, etc. Numbers are arranged in columns.

講習會講師一覽表 (順序不同敬稱略)

講義題名 職業 產報ト日本精神(日本精神論) 事業主ト産報運動 産報運動ノ理論...

産報會ノ指導運營 統制經濟論 産報ト日本精神 總力戰ト國防經濟 産報運動ノ理論...

日本精神論  
技術者ト大政翼賛運動  
青少年勞務者指導ノ諸問題  
産報青年ト大政翼賛運動  
産報青年隊ノ目標  
産報青少年指導ノ諸問題  
太平洋問題ト世界情勢  
經營ノ新動向  
日本精神

法政大學教授  
大政翼賛會總務部長  
パイロット萬年筆株式會社常務取締役本會理事  
大政翼賛會青年部長本會理事  
厚生省勞働局指導課長  
厚生省勞務管理調査委員  
海軍大佐  
大日本産報技能部長  
神祇院造營課長

三八  
太田 悌藏  
松前 重義  
渡邊 美能  
栗原 留  
秋葉 保廣  
權田 保之助  
中島 喜代宜  
根上 耕一  
角南 隆

(三) 指導資料ノ發行

産業報國運動促進ノ爲メ其ノ指導資料トシテ、本年度中本會ニ於テ發行シ之ヲ各單位産業報國會ニ配布シタルモノハ左ノ如クニシテ何レモ一萬五千部位印刷配本セリ。

(イ) 労働政策の轉換

本篇ハ産業報國運動關係警察官講習會ニ於テ内務省保安課事務官齋藤敏雄氏ノ講演筆記ヲ印刷シタルモノナリ。

(ロ) 皇國産業の道

本篇ハ本會顧問吉田茂氏、昭和十五年九月本會結成一周年記念總會ニ際シ行レタル記念講演ノ筆記ヲ印刷シタルモノナリ

(ハ) 統制經濟の現状と將來

本篇ハ商工省物價局總務課長美濃部洋次氏、本會主催ノ産業報國運動指導者講習會ニ於ケル講演ノ筆記ヲ印刷シタルモノナリ。

(ニ) 統制經濟論

本篇ハ大藏省國際金融課長迫水久常氏、昭和十五年九月六日本會主催産業報國運動指導者講習會ニ於ケル講演ノ筆記ヲ印刷シタルモノナリ。

(ホ) 懇談會の運営に就て

本篇ハ産業報國會運営ニ關シ其ノ參考トシテ本會役員並ニ警視廳關係者ト研究ノ上作成シタルモノナリ。

(ヘ) 産業報國會懇談會の運用

本篇ハ本會常任幹事三井鑛山株式會社勞務部長深川正夫氏、昭和十五年三月十九日本會主催産業報國運動指導講習會ニ於ケル講演筆記ヲ印刷シタルモノナリ。

(四) 機關紙ノ發行

昭和十四年九月二十一日本會結成後、本會ノ組織運動ノ進展スルニ伴ヒ、本會ハ機關紙發行ノ必要ヲ痛感スルニ至リ、昭和十五年一月以來、機關紙「東京地方産業報國」ヲ毎月八萬部宛發行シ、産業報國運動ノ啓蒙、宣傳並ニ報導機關タラシム。而シテ昭和十六年四月本會ノ改組ト同時ニ、本會機關紙モ亦同年四月二十一日附第十四號ヨリ「東京産業報國」ト改題シ、發行數モ九萬五千部ニ増刷スルコト、セリ。

今前輯掲載後ノ發行概況ヲ示セバ左ノ如シ。



第六號 昭和十五年十月二十一日發行

本號ハ特輯トシテ支那事變三周年ニ關スル記事ヲ以テ編輯シ、産報人ノ自覺ト決意ヲ促スト共ニ、其ノ他安全運動戰時食糧問題、地域別ノ活動等ニ關スル記事ヲ滿載シ、一般記事ノ報導ニ努ム。

第七號 昭和十五年八月一日發行

本號ハ特輯トシテ産報ノ貸銀問題對策及ビ産報運動ト戰時下貸銀問題ニ關スル座談會ノ記事ヲ以テ編輯シ、其ノ他新政治體制問題、帝都交通調整問題地域別ノ活動等ノ一般記事ヲ滿載ス。

第八號 昭和十五年九月二十一日發行

本號ハ特輯トシテ労働組合ト産報今後ノ運営ニ關スル記事ヲ中心ニ、本會ノ一周年記念總會、産報中央機構ノ問題、地域別聯合會ノ機構整備ノ問題、小規模工場事業場ノ産報組織ノ問題、本會ノ指導方策等ノ記事ヲ以テ編輯シ、其ノ他産報ノ職場ニ於ケル生活刷新運動及ビ地域別ノ活動等ノ記事ヲ滿載ス。

第九號 昭和十五年十月二十一日發行

本號ハ日獨伊三國結盟ニ關スル記事ヲ中心ニ編輯シ、其他本會ノ指導者鍊成ノ新方策、本會ノ結成一周年記念總會ノ祝辭、地域別ノ活動等ニ關スル記事ヲ滿載ス。

尙附録トシテ三國結盟ニ際シ賜リタル詔書ヲ別刷トシテ謹寫、公亞奉公日其ノ他機會アル毎ニ奉讀スルニ際シ、産報會

ノ參考ノ資ニ供ス

第十號 昭和十五年十一月二十一日發行

本號ハ特輯トシテ産業再編成ト轉失業對策及ビ産報ト轉失業問題ニ關スル座談會ノ記事ヲ以テ編輯シ、其他大日本産報ノ創立、紀元二千六百年ノ奉祝式典、地域別ノ活動等ノ記事ヲ滿載ス。

第十一號 昭和十五年十二月二十一日發行

本號ハ勤勞新體制ニ關スル記事ヲ中心ニ編輯シ、盟邦獨乙ノ厚生使節、肇國奉公隊、從業者移動防止令、其他地域別ノ活動ノ記事ヲ滿載ス。

第十二號 昭和十六年一月二十一日發行

本號ハ新體制ノ動向及ビ新體制ノ展望ニ關スル座談會ノ記事ヲ中心ニ編輯シ、年頭ニ際シ産報人ノ決意ヲ促ス記事、其ノ他地域別ノ活動記事ヲ滿載ス

第十三號 昭和十六年三月二十一日發行

本號ハ百三十五億貯蓄達成ニ關スル記事ヲ中心ニ、工場協會ノ統合問題、新勞働法ノ概要其ノ他官城外苑整備勤勞奉仕ノ感想、模範産報會巡リ、地域別ノ活動等ノ記事ヲ滿載ス

第十四號 昭和十六年四月二十一日發行

本號ハ特輯トシテ産報ト青少年工問題ヲ取扱ヒ、本會ノ事業計畫、模範産報會巡リ、支部ノ活動狀況等ノ記事ヲ以テ編輯ス

本號ハ生産擴充ニ關スル記事ヲ特輯トシ、産報青年隊問題ヲ中心ニ、模範産報會巡リ、支部活動狀況等ノ記事ヲ以テ編輯ス。

本號ハ特輯トシテ生産ト安全運動ニ關スル記事ヲ以テ編輯シ、優良會員ニ關スル記事ヲ中心ニ支部活動狀況ヲ滿載ス。

(五) 紀元二千六百年奉祝後奉公祈誓大會詔書  
御奉讀拜聽並同大會ニ代表者派遣

紀元二千六百年紀元節ニ賜ハリタル詔書ヲ奉體シテ、紀元二千六百年ノ嚴肅ナル意義ヲ肝銘シ、八紘一宇ノ皇謨ヲ崇仰シテ今次聖戰ノ眞義ヲ闡明スルト共ニ、現下世界的變局ニ當リ、東亞ノ新局面ニ即應シテ愈々皇國ノ眞使命達成ニ邁進スベキ銃後國民ノ精神ヲ更張シ、其ノ決意ヲ一層鞏固ナラシムルト共ニ、斯ノ紀元二千六百年奉祝ノ國民的感激ト銃後ノ赤誠トヲ戰線ノ將士ニ傳へ、以テ彌々戰線銃後協戮ノ實ヲ舉グルニ資スル爲メ、紀元二千六百年奉祝會主催ノ下ニ、昭和十五年六月十九日權原神宮御大前ニ於テ紀元二千六百年奉祝後奉公祈誓大會ヲ舉行セラレタリ。  
而シテ同大會宣誓式ニ於テハ紀元二千六百年紀元節ニ賜リタル詔書ヲ 長クモ 秩父宮殿下御奉讀アラセラレ、右御奉讀ヲラジオニ依リ、全國並ニ戰線及海外ニマデ御放送申上グルコトニツキ特別ノ思召ヲ以テ差シ許サレタルヲ以テ、各産業報國會ヲシテ拜聽セシメ、産業報國精神ノ昂揚ニ資シタリ。

一、拜聽ノ時間ハ午前十一時三十七分ヨリ二分間

一、各産業報國會ニ於テハ可成團體的行動ヲ以テ拜聽ノコト

一、特ニ本大會ノ趣旨ヲ體シ恭敬ノ態度ヲ以テ拜聽スルコト

尙本大會ニハ、本會ヨリ代表トシテ左ノ二名ヲ派遣セリ。

常任幹事 深川正夫  
同 西山仁三郎

(六) 紀元二千六百年紀元節ニ賜リタル詔書寫ノ第二回頒布

紀元二千六百年ノ紀元節ニ當リ、長クモ優渥ナル詔書ヲ煥發アラセラレ、臣民翼贊ノ道ヲ昭示シ給ヒシコトハ、眞ニ恐懼感激ニ堪ヘザル處ニシテ、我國民ハ一ニ聖旨ヲ恪遵シ、一億一心、和衷戮力、各々其ノ業務ニ精勵シ、嚴ニ荒怠ヲ戒メ質實剛健、克ク百艱ヲ排シ、萬苦ニ堪エ、以テ國家興隆ノ成果ヲ舉グルコトヲ期セザルバカラズ。

曩ニ、厚生省ニ於テハ全産業人ニ對シ、聖旨ヲ奉戴シ、神武天皇御創業ノ御精神ニ即シテ時艱ヲ克服シ、聖戰完遂ニ邁進スベキコトヲ強調指導セラレ、全國ノ産業報國會ニ對シ、右詔書ヲ謹寫ノ上頒布セラル、コトトナレリ。

仍テ本會ハ昭和十五年四月二日、警視廳第一會議室ニ於テ、詔書寫頒布式ヲ舉行シタル上、各地域別聯合會ヲ經由シテ全産業報國會ニ對シ謹シテ頒布シ、産業報國會ヲシテ祝祭日其ノ他機會アル毎ニ之ヲ奉讀セシメ、眷々服膺シ、以テ聖旨ニ副ヒ奉ルト共ニ益々産業報國ノ實ヲ舉ゲシムルコト、セリ。

茲ニ於テ右詔書寫ノ頒布ノ光榮ヲ負ヒタル産業報國會ハ、恐懼感激シテ、清淨安全ナル場所ニ保管シ、祝祭日其他機會

アル毎ニ、嚴肅ナル舉式ノ下ニ奉讀シ、聖旨ヲ奉戴シ、産業報國ノ實ヲ舉ゲツ、アリ。

然ルニ、右頒布後結成サレタル産業報國會モ亦多數ニ及ビタルヲ以テ、之等ノ産業報國會ニ對シテモ等シク之ヲ頒布スルノ必要ヲ生ジ、本會ハ昭和十五年十一月一日地域別聯合會ヲ通シテ之ヲ頒布シ、其ノ光榮ニ浴セシメタリ。

(七) 紀元二千六百年奉祝式典並奉祝行事ノ實施

光輝アル紀元二千六百年ヲ迎へ、政府ニ於テハ、國家ノ盛儀トシテ、昭和十五年十一月十日紀元二千六百年奉祝式典ヲ同十一日奉祝會ヲ舉行セレタルヲ以テ、本會ハ次官會議並國民精神總動員本部ノ「紀元二千六百年奉祝式及奉祝行事實施要綱」(本要綱省略)ニ基キ奉祝式及奉祝行事實施方各地域別聯合會長宛通達シタルニ、各産業報國會ハ其ノ趣旨ニ則リ、夫々之ヲ實施シ、聖壽ノ無窮ヲ壽ギ奉リ、皇謨翼贊、産業報國ノ誓ヲ新ニセリ。

(八) 紀元節ニ於ケル奉祝實施並ニ建國祭參加

紀元二千六百年ノ紀元節ニ當リ、遠ク神武鴻業ノ偉業ヲ偲ビ、實祚無窮ヲ壽ギ奉ルト共ニ、愈々緊迫セル時局ノ重大性ニ思フ致シ職域奉公ノ覺悟ヲ固メシムル爲メ、各産業報國會ヲシテ奉祝式ヲ舉行セシメ、尙當日建國祭本部主催ニ係ル建國祭式典並街頭行進ニハ三萬四千七百九十六名ヲ動員參加セシメタリ。

(九) 紀元二千六百年記念宮城外苑整備勸勞奉仕ノ實施

光輝アル紀元二千六百年ヲ迎へ、東京市ニ於テハ、其ノ紀念事業トシテ、東京市肇國奉公隊ヲ組織シ、宮城外苑ノ整備

勸勞奉仕ヲ實施中ナリシ處、偶々電力調整令ニ依ル電力制限ノ爲メ工場ノ休電日ヲ定メラレタニ依リ、本會ハ其ノ日ヲ利用シテ、産業報國會員ヲシテ光榮アル勸勞奉仕ニ參加セシメ、以テ心身ヲ鍛鍊シ、産業報國精神ノ昂揚ヲ圖リタルニ、奉仕會員ハ四萬三千名ニシテ、何レモ眞摯ナル態度ヲ以テ勸勞ニ従事シ、効果大ナルモノアリタリ。

(十) 伊勢神宮、橿原神宮、畝傍御陵、參拜旅行ノ實施

本會ハ優良會員ヲ表彰シ、併セテ産業報國精神ノ昂揚ヲ圖ル爲、會員中ヨリ優良者ヲ選抜シ、左記ニ依リ伊勢神宮、橿原神宮、畝傍御陵ノ參拜旅行ヲ實施シタルニ、極メテ有意義ニシテ産業報國運動上多大ノ効果ヲ收メタリ。

記

- (イ) 實施期日 自五月二十六日至同二十九日 四日間
- (ロ) 被表彰者 六〇〇名
- (ハ) 被表彰資格 同一工場事業場ニ十年以上勤續シ、成績優秀ニシテ一般會員ノ模範タルベキ者ノ中支部長ノ推薦ニ係ル者、但シ特別ノ事情アル場合ハ勤續十年ニ滿タザル者ト雖モ銓衡スルコトヲ得
- (ニ) 輸送機關 東京灣汽船株式會社ノ汽船橋丸ヲ借り上げ、芝浦ヨリ鳥羽マデ海上輸送トシ、鳥羽港上陸後ハ汽車及電車ヲ利用ス
- (ホ) 參拜者ノ部隊編成 參拜者ヲ二大隊六中隊トシ、中隊ヲ二ヶ小隊ニ、小隊ヲ五分隊トス
- (ヘ) 支部ニ對スル被表彰制當數 別表ノ通り
- (ト) 參拜旅行日程 別記ノ通り

伊勢神宮、橿原神宮、畝傍御陵參拜旅行割當表(東京產業報國會)

神樂坂	四谷	青島	表木	六町	鳥居	高輪	三田	愛宕	月島	京橋	築地	新堀	堀留	久松	萬世	西神	錦町	丸の内	麩ノ
品川	洲崎	扇野	平野	言問	厩橋	太橋	兩國	兩橋	菊藏	日藏	象本	谷本	坂本	上野	駒込	本富	大塚	富坂	早稲田
一八	五五	四八	六六	〇〇	一〇	一〇	三二	四三	一三	七三	二二	三三	四二	一〇	二二	三三	四四	五五	〇三
集鴨	荻窪	杉並	野方	中野	戸塚	淀橋	代木	原宿	澁谷	碑文	目黒	玉川	世田	蒲田	東布	大森	荏原	大崎	大井
四四	四三	三一	三四	四四	四四	四三	三八	四四	四五	二四	四〇	二〇	二〇	一八	一五	一〇	一〇	一〇	一〇
水小	砂島	龜戸	葛飾	吾嬬	寺島	西井	千住	日暮	三軒	南千	尾住	赤羽	王塚	練馬	板橋	瀧野	目白	池袋	
三八	二〇	一六	一三	一六	二二	一四	一八	四四	四五	四五	五五	一八	二二	二四	二八	五五	四四	四四	

參拜旅行日程表

第一日 五月二十六日 (月曜日)		第二日 五月二十七日 (火曜日)					第三日 五月二十八日 (水曜日)					
芝浦	汽船發着所	東京芝浦	鳥羽港棧橋	鳥羽驛	山田驛	外宮前	外宮前	內宮前	內宮前	大神樂奉納	內宮前	二見驛
後	後	前	前	同	同	同	同	同	同	同	同	同
〇:三〇	〇:三〇	二:〇〇	四:三〇	七:〇二	七:三三	七:五〇	九:〇〇	〇:三〇	〇:三〇	一:〇〇	一:三〇	二:五〇
出發式	東京灣汽船橋丸(二、四〇噸乘船)	上陸鳥羽各旅館行徒步十五分	汽車二十分	下車山田各旅館手荷物置キ外宮參拜徒步五分	神都交通電車二十分	參拜終了	大神樂奉納終了	神都交通電車二十分先着順乘車	下車二見夫婦岩見物			
	夕食船中	朝食旅館						晝食內宮前岩戶館				

町八  
五  
田子  
  
一七  
田府  
無中  
一五  
二〇  
五青  
日市  
梅  
  
一二

第四日 五月二十九日 (木曜日)		第三日 五月二十八日 (水曜日)																																																								
東京 芝浦着	前 九・〇〇	解散式	朝食船中	鳥羽港棧橋發	同	七・三〇	船中	鳥羽旅館發	同	六・三〇	汽船乗場從歩十五分後七〇〇乗船	鳥羽驛着	同	四・五八	下車鳥羽各旅館へ入ル	夕食各旅館	山田驛着	同	三・三三	山田驛發	同	四・三九	汽車十九分	山田驛發	同	五・四四	山田驛發	同	四・三三	山田驛發	同	一・四二	榎原驛發	榎原驛發	同	一・四六	榎原驛發	同	九・五五	大軌電車特別仕立約一時間五十分	山田驛發	同	四・五五	下車宿舍各旅館分宿	山田驛發	同	五・三九	山田驛發	同	四・四七	汽車十九分	二見驛發	同	四・四七	二見驛發	同	五・三一	汽車十九分

(十一) 日獨伊三國同盟締結ニ際シ賜リタル詔書奉戴式舉行  
並大政翼贊三國同盟國民大會參加

昭和十五年九月二十七日日獨伊三國同盟締結ニ際シ、畏クモ詔書ヲ煥發アラセラレ、複雑ナル國際情勢ニ處シ臣民ノ嚮

フ處ヲ昭示シ給ヘリ、サレバ本會ニ於テハ高度國防國家完遂ノ一翼ヲ擔當スル産業報國會員ノ産業報國精神ヲ振起シ、聖旨ニ應ヘ奉ラン爲、本會主催ノ下ニ 詔書奉戴式ヲ舉行スル豫定ヲ以テ計畫中ナリシ處、偶々東京府、東京市、國民精神總動員本部共同主催ヲ以テ、大政翼贊三國同盟國民大會ヲ開催セラルルコト、ナリタルヲ以テ、本會ハ之ニ參加スルコトニ決定セリ。然ルニ、前記國民大會ハ十月十三日日比谷公園、芝公園、明治神宮外苑、後樂園廣場、上野公園、濱町公園ノ六ヶ所ニ於テ舉行セラレタルヲ以テ、本會ハ各支部ヨリ會員八千餘名ヲ動員シ、大會並ニ街頭行進ニ參加セシメタリ。尙本會ハ十一月一日ノ興亞奉公日ヲ期シ、各職場ニ於テ詔書奉讀式ヲ舉行セシメ、産業報國精神ノ昂揚ト、其ノ實踐強化ヲ圖リタリ。

(十二) 時艱克服産業報國大祈願式典並記念動員大會舉行

昭和十五年十一月二十三日、大日本産業報國會結成セラレ、全國ノ産業報國會ヲ統轄指導スルコト、ナリタル爲メ、其ノ發足ノ第一歩トシテ、同會主催ノ下ニ、昭和十六年四月一日中央並ニ地方ニ於テ伊勢神宮ニ參拜若シクハ遙拜シテ、時艱克服、産業報國大祈願式典並ニ記念動員大會ヲ舉行セラル、コト、ナリタリ。サレバ、本會ハ伊勢ニ於テ舉行ノ中央祈願式典並ニ記念動員大會ニハ代表者百名ヲ、本會常任理事町田辰次郎ヲ部隊長トシテ派遣スルト共ニ、東京地方ノ式典並ニ記念動員大會ヲ神田區錦町共立講堂ニ於テ、會員代表三千名ヲ動員シテ舉行シ、同時ニ、各單位産業報國會ニ於テモ、夫々遙拜祈願式典其ノ他ノ行事ヲ實施セシメタリ。

因ニ東京地方ノ式典及記念動員大會ノ狀況左ノ如シ。

昭和十六年四月一日午前十時、神田區錦町共立講堂ニ於テ、會員代表三千名ヲ動員シ、定刻全員參列ノ上、時艱克服ノ

祈願式典ヲ執行シ、次デ記念勳員大會ニ移リ、國歌齋唱、伊勢神宮並宮城遙拜、戰歿將士ノ英靈並皇軍將士ニ對スル感謝歌、紀元二千六百年紀元節ニ賜リタル詔書奉讀、綱領宣言朗讀、會長式辭、代表者誓詞、宣誓、來賓厚生大臣並大日本産業報國會總裁、大政翼贊會總裁ノ祝辭、出征軍人へ感謝電報打電（陸海軍最高指揮官宛）、會長代理本會常任理事永野特高部長ノ發聲ニテ聖壽萬歲ヲ奉唱シ、極メテ嚴肅盛大裡ニ行ヒ散會セリ。  
尙、大會終了後會長代理常任理事永野特高部長以下常任理事、幹事ハ明治神宮ニ參拜シ、時艱克服ヲ祈願シ、産業報國ヲ宣誓シタリ。

（綱領宣言來賓祝辭ヲ省略ス）

### 誓詞

- 一、萬邦無比ノ皇國ニ生ラ享ケ日々生産ノ業ニイソシム我等ノ感激何ニカ喻エン
  - 一、時艱益々深刻ナレトモ我等國民ノ意氣愈々昂シ誓ツテ之ヲ克服セン
  - 一、生産ノ擴充能率ノ向上技術ノ鍊磨資深ノ愛護總テ是焦眉ノ急務我等産業人ノ責務ヤ重且大ナリ誓ツテ之ヲ必成セン
  - 一、義以テ分スルハ和ノ基全産業人一體事業一家生活刷新ハ我等會員切々ノ信條ナリ誓ツテ之ヲ實踐セン
- 右畏ミテ祈リ嚴カニ誓フ

東京産業報國會員代表

渡

邊

旭

### 宣誓

玆ニ謹ミテ我等全産業人一體トナリ肇國ノ精神ヲ體シ皇民勤勞ノ眞諦ニ生キ皇國産業ヲ興隆シ報國ノ實ヲ擧ゲ曠古ノ國難ヲ克服シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼シ奉ランコトヲ誓フ

### 電報案

吾等帝都百萬ノ産業人ハ本日伊勢神宮ヲ遙拜シ時艱克服産業報國ノ祈願式典ト併セテ記念勳員大會ヲ舉行シ銃後産業戰士ノ覺悟ヲ新ニシ皇謨翼贊ノ至誠ヲ誓フ玆ニ遙ニ大陸ニ於テ大東亞建設ノ聖戰ニ奮闘セラル、皇軍將兵各位ノ勞苦ヲ偲ビ深甚ナル感謝ヲ致スト共ニ謹ミテ神靈ノ加護ニ依リ愈々武運長久ナランコトヲ祈ル

昭和十六年四月一日

東京地方産業報國會聯合會時艱克服祈願勳員大會

陸軍 最高指揮官宛  
海軍

### (十三) 一千字産報解説懸賞募集

産業報國會員ノ産業報國運動ニ對スル關心ヲ昂ムル爲メ、昭和十六年一月二十一日附機關紙第十二號ヲ以テ、左記募集規定ノ下ニ「一千字産報解説」ノ懸賞募集ヲナシタルニ、應募者二五三名ノ多數ニ達シタルヲ以テ、嚴重ナル審査ヲ行ヒ

次ノ通り入選者ヲ決定シ、本會長ノ賞狀及副賞ヲ夫々授與セリ。

(イ) 募集規定

- (1) 産業報國運動ニ就テ
- (2) 應募資格ハ東京地方産業報國聯合會々員タルコト
- (3) 賞品
  - 一等 一名 會長ノ賞狀及副賞トシテ金三十圓
  - 二等 三名 同賞狀及副賞トシテ金十五圓
  - 三等 十名 同賞狀及副賞トシテ金五圓、
- (4) 審査 本會常任理事及常任幹事
- (5) 締切 昭和十六年二月末日限り
- (6) 發表 機關紙三月號ヲ以テ發表ノ豫定

(ロ) 入選者

一等	代々木支部日本鑛會社	中山茂
二等	丸ノ内支部東京市電	繩野喜助
同	府中支部立川飛行機	梅津忠政
同	代々木支部彌滿和製作所	一瀬信夫
三等	野方支部東洋ファイバー	高須三四郎

同	太平支部日新染布	清水三奇夫
同	戸塚支部オリエンタル寫眞工業	宮下安太郎
同	府中支部日本無線	山本福夫
同	荏原支部須永製作所	桑田克己
同	戸塚支部オリエンタル寫眞工業	吉澤正音
同	府中支部日本製鋼所	辻中彌兵衛
同	蒲田支部新鴻鐵工場	神田哲雄
同	大崎支部原口電機製作所	相原良吉
同	代々木支部日本タイプライター	神林俊夫

(十四) 漢詩和歌レコード製作配布

本會ニ於テハ産業報國精神昂揚ニ資スル爲メ、左記漢詩及和歌レコードニ製作シ、各支部ニ配布セリ。

産業之詩

—安岡正篤作—

吉村岳城

寝々興業極ニ精微

變水爲光乳化衣

願使<sup>シ</sup>生<sup>シ</sup>民<sup>シ</sup>無<sup>シ</sup>凍<sup>シ</sup>餓<sup>シ</sup>  
 營<sup>シ</sup>々<sup>ニ</sup>日<sup>ニ</sup>計<sup>シ</sup>成<sup>シ</sup>何<sup>ニ</sup>事<sup>ナ</sup>  
 産業元來非<sup>ス</sup>競<sup>ス</sup>利<sup>ス</sup>  
 八紘一字樂<sup>ニ</sup>皆<sup>ニ</sup>歸<sup>ス</sup>  
 歲計有<sup>ル</sup>餘<sup>ニ</sup>爲<sup>ス</sup>善<sup>ニ</sup>謀<sup>ス</sup>  
 大開<sup>ニ</sup>世<sup>ニ</sup>務<sup>ニ</sup>贊<sup>ス</sup>皇<sup>ニ</sup>猷<sup>ス</sup>

産業精神朗詠

吉村岳城

龜井茲監

數ならぬわが身ながらも御世の爲

君に心をうちさしげつゝ

本居宣長

550子<sup>ニ</sup>ともさかしらせずて玉ちはふ

神のみしわざ助けまつろへ

神野信一

天地のものつくる神の子が

今この場にもものつくるかも

(十五) 産業殉職者慰靈祭執行

昭和十五年十一月二十日、麴町區九段軍人會館ニ於テ、本會並ニ東京工場協會共同主催ノ下ニ、産業殉職者慰靈祭ヲ執行セリ。

今回ノ新祭神ハ、昭和十一年十一月以降同十五年十月迄ノ都下工場ニ於ケル災害ノ爲、殉職セラレタル五百二十名ト、産業報國會結成後ノ交通關係殉職者、其ノ他三十名ノ方々ニ、昭和十一年十一月以前ノ殉職者四百八十二柱ヲ合セ、計一千三十七位ノ靈ヲ合祀シタリ。

而シテ神宮奉齋會ヨリ神職ヲ聘シ、新祭神ノ遺族、關係事業主、従業員代表、兩主催役員、來賓、計二千餘名ノ參列ヲ得テ、嚴肅裡ニ執行セリ。

七 産報道場建設

本會ニ於テハ産業報國運動ノ發展ニ伴ヒ、其ノ内容ヲ益々充實強化シ、高度國防國家確立ニ貢獻センガ爲メ緊要缺クベカラザル産業報國道場ノ建設ヲ計畫シ、左記趣旨及ビ具體案ヲ作成シ、各種役員會ヲ經、九月二十一日ノ總會ニ諮リタルニ、滿場異議ナク之ヲ可決シタリ。

(一) 趣旨

産業報國運動提唱セラル、ヤ各位ノ熱誠ナル協力ニ依リ非常ナル發展ヲ示シ、現在本會加盟ノ産業報國會ハ、實ニ二萬一千ニ及ビ其ノ會員數ハ七十萬ヲ數フルニ至レルハ國家ノ爲メ洵ニ慶祝ニ堪ヘザル處ナリ然リト雖モ本會ノ精神並ニ使命



ニ鑑ミルトキハ本運動ノ實績ハ尙其ノ緒ニ就キタルニ過ギズ即チ本會ハ彌々其ノ内容ヲ充實シ日ニ新ナル國家ノ情勢ニ即應シ新産業道確立ノ爲メ、不動ノ礎石ヲ置カントシ茲ニ本會道場ヲ建設シ以テ之ガ一助タラシムルト共ニ當面ノ本會事業推進ノ急ニ應ゼントス

年恰モ光輝アル紀元二千六百年ヲ迎ヘ皇國躍進ノ重大時期ニ際シ愈々産業報國精神ノ強化擴充ノ要アルヲ痛感スル次第ナルヲ以テ會員各位舉ツテ本會ニ御賛同アラシムコトヲ希フモノナリ

(二) 道場建設具體案

(1) 道場建設費 一五〇、〇〇〇圓

内 譯

- (イ) 土地建物買收費 一六五、〇〇〇圓
- (ロ) 登記税其他手續費 七、〇〇〇圓
- (ハ) 修理費 四〇、〇〇〇圓
- (ニ) 設備費 二〇、〇〇〇圓
- (ホ) 豫備費 一八、〇〇〇圓

(2) 基金造成方法

- (イ) 原則トシテ産業報國會ノ釀金ニヨルコト
- (ロ) 右釀金ハ各地域別聯合會加盟各産業報國會ノ全會員數ニ按分スルコト、シ其ノ各産業報國會ニ對スル具體的割當方法ハ地域別聯合會ニ一任スルコト

(ハ) 右釀出金納入ハ昭和十五年十月ヨリ之レヲ始ムルモノトス

(ニ) 右釀出金ハ本年十月及昭和十六年四月ノ二回ニ分納スルモノトス

本計畫ノ實施ハ急ヲ要スル爲之ニ要スル經費ハ取散ヘズ一時取入金ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

(三) 維持經營方針

(イ) 取散ヘズ財團法人トナスコト

(ロ) 必要ナル經費ハ本聯合會經常費ヨリ之ヲ支辨スルモノトス

(四) 實行方法

(イ) 本聯合會内ニ道場建設委員會ヲ設置スルコト

(ロ) 右委員會ノ委員ハ本聯合會常任理事及常任幹事中心ヨリ會長之ヲ指示スルモノトス

斯クテ本會ハ右決議ニ基キ之ヲ建設ニ着手シ、買收委員ニ永野特高部長、岡本保安部長、大塚、寛常任理事、深川常任幹事ノ五氏ヲ指名シ、澁谷區神山町十一番地水野子邸邸宅地壹千二百六十九坪、建物二百七十六坪ヲ金十五萬圓ニテ買收シ、目下内部改造中ニシテ、本年九月中ニ完成ノ見込ナリ。

(五) 財團法人東京産業報國會財團設立

本會ハ以上ノ如ク財産ヲ所有スルニ至リタルヲ以テ既定方針ニ基キ別記財團法人東京産業報國會財團寄附行爲ニ依リ財團法人ノ設立ヲ申請シタルニ、昭和十六年七月四日主務官廳タル厚生省ノ許可ヲ得タリ。

(六) 道場建設基金釀出額ノ割當

(別表ノ如シ六〇頁参照)

# 財團法人東京産業報國會財團寄附行爲

## 第一章 名 稱

第一條 本財團ハ財團法人東京産業報國會財團ト稱ス

## 第二章 目 的

第二條 本財團ハ東京産業報國會ノ爲ニ其ノ收入ヲ受領シ其ノ資産ヲ維持管理シ其ノ經費ヲ支辨シ以テ同會ノ事業ノ遂行ニ資シ産業報國運動ノ進展ヲ圖ルヲ目的トス

## 第三章 事 務 所

第三條 本財團ハ事務所ヲ東京府東京市麴町區霞ヶ關一丁目二番地警視廳内ニ置ク

## 第四章 資 金

第四條 本財團ノ資産ハ東京産業報國會ノ資産ヨリ成ル

本財團設立ノ日ニ於ケル資産ハ別紙目錄ノ通りトス

第五條 前條資産ノ維持管理方法ハ理事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第六條 本財團ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第七條 本財團ノ收支ハ東京産業報國會ノ收支豫算ニ依ル

## 第五章 役 員

第八條 本財團ニ左ノ役員ヲ置ク

一、理 事 人

二、監 事 人

理事中一名ヲ理事長トス

第九條 理事及監事ハ東京産業報國會役員ノ職ニ在ル者ノ中ヨリ東京産業報國會長ノ職ニ在ル者之ヲ委嘱ス

第十條 理事長ハ東京産業報國會ノ會長ノ職ニ在ル者之ニ當ル

理事長ハ本財團ヲ代表シ事務ヲ統轄ス

理事長事故アルトキハ理事長ノ指名シタル理事其ノ職務ヲ代理ス

第十一條 役員ノ任期ハ其ノ者ガ東京産業報國會ノ役員タル期間中トス

役員ハ任期滿了後ト雖モ後任者ノ就任スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス

## 第六章 補 則

第十二條 本寄附行爲ノ施行ニ關シ必要ナル細則ハ理事會ノ議決ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

第十三條 本寄附行爲ヲ變更セントスル場合ハ理事會全員ノ同意ヲ得且主務官廳ノ認可ヲ受クルモノトス

## 第七章 附 則

第十四條 本財團設立當初ノ役員ハ左ノ如シ

理事長 氏名

理事 氏名

道場建設基金醸出額割當表

(昭和十五年八月末現在)  
會員數ニヨル

地域別聯合會名	報國會數	同上會員數	醸出割當額
麴町	6	335	8,000
丸ノ内	3	176	6,300
錦町	3	367	1,300
西神田	5	371	1,600
萬世橋	3	267	9,800
久留松	3	350	2,600
堀留橋	3	1,600	3,300
新場橋	3	1,195	2,000
築地橋	1	5,353	1,900
京橋	1	3,555	1,900
月島	9	8,933	3,350
愛宕	2	4,100	1,500
三田	3	2,956	8,700
高輪	2	8,133	2,950
鳥居坂	2	6,555	2,800
六本木	3	5,000	1,800
赤坂	3	1,556	5,500
(表町青山)			
四谷	6	4,000	4,000
神樂坂	6	3,500	3,500
早稲田	5	5,900	2,000
富坂	3	2,800	1,000
大塚	4	8,600	3,000
本富	4	1,000	3,500
駒込	5	7,400	2,600
上野	4	1,200	4,000
板本	2	500	1,200
谷中	2	1,800	1,800
象湯	2	1,000	1,000
日本堤	2	1,000	1,000
藏前	2	1,000	1,000
菊屋橋	2	7,000	2,000
兩國	2	1,000	1,000
太橋	2	1,000	1,000
厩橋	2	5,900	2,500

地域別聯合會名	報國會數	同上會員數	醸出割當額
平野	1	1,000	3,500
扇橋	1	1,000	1,000
洲崎	1	1,000	1,000
品川	1	1,000	1,000
大井	1	1,000	1,000
大崎	1	1,000	1,000
荏原	1	1,000	1,000
大森	1	1,000	1,000
東布	1	1,000	1,000
蒲田	1	1,000	1,000
世田谷	1	1,000	1,000
玉川	1	1,000	1,000
目黒	1	1,000	1,000
碑谷	1	1,000	1,000
澁谷	1	1,000	1,000
原宿	1	1,000	1,000
代木	1	1,000	1,000
淀橋	1	1,000	1,000
戸塚	1	1,000	1,000
中野	1	1,000	1,000
野方	1	1,000	1,000
杉並	1	1,000	1,000
荻窪	2	6,400	2,300
果幡	2	5,600	1,400
池袋	2	7,700	2,300
日野	2	7,700	2,300
板橋	2	7,700	2,300
練馬	2	7,700	2,300
王子	2	7,700	2,300
赤羽	2	7,700	2,300
尾久	2	7,700	2,300
南千住	2	7,700	2,300
三軒島	2	7,700	2,300
日暮里	2	7,700	2,300
千住	2	7,700	2,300
西新井	2	7,700	2,300
寺島	2	7,700	2,300
吾妻	2	7,700	2,300
葛飾	2	7,700	2,300
龜戸	2	7,700	2,300
砂川	2	7,700	2,300
小松川	2	7,700	2,300
水戸	2	7,700	2,300
八王子	2	7,700	2,300

町	二	五	10,000	青	梅	113	1,000	1,000
府	中	三	8,475	日	市	夫	1,100	8,475
田	無	五	1,796	合	計	二,638	2,638	2,638

### 八 生産力擴充並國策遂行への協力

生産力ノ擴充並ニ國策協力ニ關スル事項ハ、産業報國精神ノ實踐化トシテ、産業報國運動ニトリテハ、最モ重要ナル事業ニ屬スルモノトス。殊ニ、生産力ノ擴充ノ成否ハ、高度國防國家建設ノ途上ニアル我が國ニトリテ、ソノ影響ルル所甚大ナリト謂ハザルベカラズ。サレバ、本會ハ夙ニ此ノ點ニ留意シ、關係官公署並ニ團體ト常ニ緊密ナル連絡ヲ保持シ、本事業ノ推進上萬遺漏ナキヲ期シツ、アル所ニシテ、本年度中本會ノ實施シタル本事業ノ概況ハ左ノ如シ。

#### 一 防諜週間ノ實施

現代ノ戰爭ハ單ナル武力戰タルニ止マラズ、國家總力戰タルハ既ニ一般周知ノ如シ。殊ニ國內ニ於ケル外國ノ諜報機關ノ活動ハ、所謂秘密戰トシテ各國トモ重視セル所トス。政府ニ於テハ、此ノ間ニ處シ、國家ノ重要機密ヲ保持シ、國民全般ニ對シ防諜思想ノ普及徹底ヲ期スル爲メ、昭和十六年五月防諜週間ヲ實施セラレタリ。サレバ本會ニ於テモ、本問題ノ重要性ニ鑑ミ、關係官公署並ニ團體ト緊密ナル連絡ノ下ニ之ニ協力シ、本運動ノ指導上萬遺憾ナキヲ期スルト共ニ、防諜ポスターヲ作成シ、之ヲ管下各支部並ニ關係方面ニ配布シタリ。

#### 二 戰時食糧報國運動實施

戰時食糧問題ハ銃後ニ於ケル最モ重要ナル問題ノ一ニシテ、各國トモ之ニ重大ナル關心ヲ拂ヒツ、アル所ナリ。我が國ハ古來「瑞穂ノ國」ト稱セラレ、事食糧問題ニ關スル限り、最モ恵マレタル所ナリト雖モ、戰時下ニ於テハ、尙且之ヲ等閑ニ附スル事能ハザルハ固ヨリ論ヲ俟タズ。サレバ、國民精神總動員本部ニ於テハ、昭和十五年六月戰時食糧報國運動實施方針ヲ決定シ、之ニ基キ、全國的ニ戰時食糧報國運動ヲ展開セラレタリ。サレバ、本會ニ於テモ、政府ノ本方針ニ基キ關係官公署並ニ團體ト緊密ナル連絡ノ下ニ、戰時下米穀事情ノ認識ト戰時經濟道德ノ昂揚ニ努ムルト共ニ、本運動ノ實踐ヲ推進シ、多大ノ効果ヲ收メタリ。

#### 三 生産力擴充ポスター圖案懸賞募集

本會ニ於テハ、本會結成一周年記念事業トシテ、昭和十五年八月一日附本會機關紙「東京地方産業報國」第七號紙上ヲ通ジ、生産力擴充ニ關スルポスター圖案ヲ、廣ク産報會員中ヨリ懸賞募集シタル處、應募作品總數二百五十二點ニシテ、嚴選ノ結果、

- 一等 金羊者産報會(愛宕) 吳 周 煥
- 二等 大日本印刷産報會(早稻田) 吉 田 喜 美 藏
- ウテナ産報會(世田谷) 西 澤 大 六
- 三等 京濱湘南産報會(高輪) 中 村 博
- 太田胃散産報會(富坂) 金 谷 義 政
- 坂上商會産報會(太平) 米 川 保

日本化工産報會(板橋) 中村清平  
同 檜垣進

本會ハ右入選者ニ對シ、賞狀並ニ金一封ヲ授與シ、選外佳作者ニ對シ、金一封及ビ努力賞ヲ、一般應募者ニ對シテハ努力賞ヲ夫々贈呈セリ。

尙本會ニ於テハ、一等及ビ二等入選作品三點ヲ印刷ニ附シ、廣ク關係方面ニ配布セリ。

#### (四) 交通道德強調週間實施

昭和十五年九月十六日ヨリ同二十二日ニ至ル間、警視廳、東京府、東京鐵道局、東京市、共同提唱ノ下ニ、交通道德強調週間ヲ實施セラレタルニ依リ、本會ハ之ニ協力シ、各産業報國會ニ交通自治委員會ヲ設ケシムト共ニ、會員五百名以上ノ工場事業場ニ在リテハ、恒常的ニ交通自治委員會ヲ設ケシメ、交通道德ノ普及徹底ニ協力セリ。

#### (五) 貯蓄の奨励

貯蓄額ノ増加並ニ國債消化ノ問題ハ、戰時財政ノ堅實圓滑ナル運営上、最モ緊要ナル問題ニシテ、本問題解決ノ成否如何ハ、直接戰時財政ノ運営上支障ヲ來スノミナラズ、延テハ、生産力ノ擴充、高度國防國家ノ建設ニ影響スル所甚大ナルモノアリ。政府ニ於カレテハ、此ノ點ニ留意セラレ、本問題ノ解決ニ懸命ノ努力ヲ拂ハレツ、アル所ナリ。サレバ、本會ニ於テハ政府ヨリノ通牒ノ次第モアリ、殊ニ、内外ノ情勢頓ニ緊迫セル折柄、本問題ノ重要性ニ鑑ミ、警視廳當局ト協力、屢次ニ亙リ地域別聯合會長宛通牒ヲ發シ貯蓄ノ奨励強化ヲ圖リ、之ガ實施ノ徹底ヲ期スルト共ニ、尙事變債券購入運動ニ關

シテモ事變債券賣出ノ都度之ヲ實施シ、多大ノ効果ヲ收メツ、アリ。

### 九 福利厚生施設

福利厚生施設ハ産業報國事業一家精神ノ顯現タル事業繁榮ト、萬民厚生トノ融合一體ヲ實現スル爲メ、將亦當面ノ實踐目標タル生産力擴充ニ事業場ノ全機能ヲ發揚スル爲メノ根本方策ナリ。而シテ、斯ノ種ノ事業ハ從來、主トシテ、東京工場協會ニ於テ實施シ來リシガ、本會結成以來、本會ハ前叙ノ根本方策ニ則リ、事業ノ多クハ右東京工場協會ト共同主催ノ下ニ實施シ、更ニ昭和十六年四月一日、東京工場協會ノ統合以來、専ラ本會ノ事業トシテ實施セリ。其ノ概況左ノ如シ。

#### (一) 勞務者用必需品ノ配給

時局下勞働力ノ保全増強ト、作業能率ノ増進ヲ圖ルノ要緊切ナルニ鑑ミ、厚生省ニ於テハ、工場、鑛山、並ニ工場以外ノ勞務者ニ對シ、勞働作業衣用綿製品及ビ女子用ゴム底布靴ノ配給ヲ實施セラル、コト、ナリタリ。本會ニ於テハ、此ノ厚生省ヨリノ屢次ニ互ル通牒ニ依リ、昭和十五年六月ヨリ配給事務ヲ鞅掌シ、爾來別表ノ通り、前後五回ニ互リ配給ヲ實施、其ノ數實ニ總計八十萬八千餘點ノ多キニ及ビタリ。

回数別	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	計
年月日	十五、一〇、一	十六、二、一八	十六、五、廿二	十六、七、廿	同	
普通ズボン	一〇四、〇五三	九五、〇〇五	一〇〇、〇一四	一一三、二〇九	一三〇、九三六	五四三、二一七
乗馬ズボン	一五、八二一	三、〇五九	四、五九五	二、三八九	三、七二二	二九、五八六
シャツ	—	一二、五八六	二四、七七七	一四、二九四	一九、一二六	七〇、七八三
モンハ	—	—	四、二五〇	三、一四一	三、五九七	一〇、九八八

スカート	六、九五九	五、〇一三	三、八三九	四、四五〇	二〇、二六一
女子用作業衣	三一九	一三、九九五	一八	一四、三一四	一一、八一二
印半纏	八、四〇八	四、三八六	一八	一〇六、〇四一	八〇八、〇〇二
女子布製ゴム靴	七九、四五五	二六、五八六			
合計					六六

(二) 海の健康村開設

本會ハ東京工場協會ト共同主催ノ下ニ、昭和十五年七月一日ヨリ同年八月三十一日ニ至ル二ヶ月間ニ亙リ、從來東京工場協會ガ夏期ニ開設シ居タル千葉縣谷津海岸遊園地ニ「海の健康村」ヲ開設シタル處、入場者累計十七萬三千七百七十一人(内譯大人十一萬九千七百三十六人、小人五萬四千三十五人)ニシテ、保健上多大ノ効果ヲ收メタリ。

(三) 産業體育大會ノ舉行

本會ハ東京工場協會ト共同主催ノ下ニ、産業體育大會ヲ舉行セリ。其ノ概況左ノ如クニシテ優勝支部、優勝工場優勝選手ニ對シ、夫々、優勝旗又ハ賞品ヲ授與セリ。

- (イ) 陸上競技大會  
昭和十五年九月十五日、明治神宮外苑、競技場ニ於テ、開催、參加選手男子部、女子部ヲ合シ、五千九百四十七名。
- (ロ) 武道大會  
同年九月二十二日、警視廳演武場ニ於テ開催、參加選手劍道部百三十名、柔道部百九十六名。

(ハ) 弓道大會

同日芝濱松恩賜公園弓道場ニ於テ開催、參加選手百五名。

(ロ) 相撲大會

同日明治神宮外苑相撲場ニ於テ開催、參加選手百八十名。

(四) 工場體育巡回指導

本會ハ東京工場協會統合後、即チ昭和十六年四月一日ヨリ、工場勞務者ノ體位向上ヲ圖ル爲、專任體育技手六名ヲ置キ管下各工場ヲ巡回シ、體育指導ヲ實施シツ、アルガ、昭和十六年四月一日ヨリ同年六月末ニ至ル三ヶ月間ニ、巡回指導ヲ實施シタル工場數ハ三百十六ニシテ、被指導者ハ延人員總計六十二萬七千二百十四名ノ多キニ達シタリ。

(五) 産業體育指導者講習會

本會ハ産報會員ノ體位向上ヲ圖ル目的ヲ以テ、各工場ノ體育指導者ヲ養成スル爲、東京工場協會統合以來、即チ、昭和十六年四月ヨリ同年六月末ニ至ル間、別表ノ通り産業體育指導者講習會ヲ開催シ、指導者二千五百五十名ヲ養成シタリ。

産業體育講習會概況

講習期間	日數	人員	講習場所
自四月十二日 至同十四日	三日	三五名	青梅町府立第九高等女學校
自四月十九日 至同二十一日	三日	一〇三名	八王子市立第四尋常小學校

自四月二十六日	三	日	四七名	府中町府立農蠶學校
至同五月十二日	五	日	二五六	荏原區星商業講堂
自五月十六日	五	日	三六四	小石川區大塚軍事護衛館
自五月十九日	三	日	二七	五日市町立五日市尋常小學校
自五月二十四日	五	日	一八一	品川區府立雙啞學校
自五月二十七日	三	日	二三七	右 同
自五月三十一日	五	日	三七五	蒲田區高砂鐵工場
自六月二日	五	日	三三七	向島區吾嬭町大東紡織工場
自六月六日	五	日	一八八	城東區龜戸町東洋紡織工場
自六月九日	五	日		
自六月十三日	五	日		
自六月十六日	五	日		
計			二、一五〇	

(六) 工場食改善巡回指導

本會ニ專屬榮養技手四名ヲ置キ、従業員ニ對シ、給食シ居ル工場ヲ巡回シテ、榮養調理方法ノ指導ニ當ラシメ、東京工場協會統合後、即チ、昭和十六年四月一日ヨリ同年六月末日ニ至ル間之ヲ指導シタル工場數ハ百五十九ナリ。

(七) 修養慰安娛樂

産報會員ノ修養ト慰安娛樂ノ爲メ、本會主催ノ下ニ、映畫及劇ノ觀賞大會ヲ舉行シタルガ、其ノ概況左ノ如シ。

- (イ) 昭和十五年九月十五日午前八時ヨリ同十一時迄、東京劇場ニ於テ映畫「民族の祭典」ヲ上映シタルニ、入場者二千名。
- (ロ) 同年十月二十一日午前九時ヨリ同十二時迄、明治座ニ於テ「天高き日」外數種ノ演劇觀賞會ヲ開催シタルニ、入場者千五百名。
- (ハ) 同年十一月十日午後六時ヨリ同九時半迄小石川後樂園スタジアムニ於テ、映畫「民族の祭典」第二回上映ヲナシタルニ、入場者約壹萬名。
- (ニ) 昭和十六年二月六日ヨリ同十九日ニ至ルニ週間ニ互リ、新宿武藏野館、丸ノ内邦樂座、淺草大勝館、其ノ他ノ數館ニ於テ、映畫「美の祭典」ヲ上映シタルニ入場者總計三萬餘名。

### 東京産業報國會各支部活動狀況

本年四月東京地方産業報國聯合會を東京産業報國會と名稱、改稱に伴ひ地域別聯合會も東京産業報國會の支部に改組せり。

而して本年一月八丈島同三月大島支部の結成と赤坂支部の表町、青山兩支部に發展的改組に依り其の支部數は八十八の多きに達し本部と緊密なる連絡の下に本部の事業に協力せられ又は支部独自の立場に於て極めて積極的に凡ゆる事業を計畫實行せられ其の成績寔に見るべきものあり。

特に本部同様本運動精神の普及徹底の爲め講習會、講演會に重點を置き開催せられつゝあり。更に各支部にありては、優良會員の表彰、産業殉職者慰靈祭執行、建國祭其の他團體行進又は體育慰安娛樂に關する事項、或は産報道場の建設、機關紙の發行等、各種事業を通過して極めて活潑なる運動を展開せられつゝあり既往一ヶ年間に於ける其の主なる成績左の通り。

### 支部活動狀況

(自昭和十五年八月一日至同十六年六月末日)

支部名	役員會各種研究會 催懇談會開催	講演會 催開	講習會 催表	優良會員 表彰	殉職者 慰靈祭執行	建國祭其の他 團體行進	體育ニ關ス ル行の事項	慰安娛樂ニ 關スル事項
表町	回數 二	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	人員 一
青山	回數 二	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	人員 一
本居	回數 三	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	人員 一
鳥居	回數 三	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	人員 一
高輪	回數 三	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	人員 一
三軒	回數 九	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	人員 一
愛宕	回數 六	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	人員 一
月島	回數 二	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	人員 一
京橋	回數 三	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	人員 一
築地	回數 五	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	人員 一
新堀	回數 九	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	人員 一
堀留	回數 三	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	人員 一
久松	回數 三	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	人員 一
萬世	回數 五	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	人員 一
西神	回數 五	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	人員 一
錦町	回數 八	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	人員 一
丸の内	回數 五	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	人員 一
九段	回數 四	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	人員 一
總務	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	回數 一	人員 一



花東大 浦世玉 田調 文 碑 澁原 代 澁 中 野 杉 萩 巢 池 目 瀧 板 練 王  
 森 布 田 谷 川 黑 谷 谷 宿 木 橋 塚 野 方 並 窪 鴨 袋 白 川 橋 馬 子

七	五	壹	六	三	三	八	三	二	七	三	七	肆	肆	〇	〇	三	六	八	三	肆	五	〇	九
六	二	九				元	一	一	七	七	三	六	四			四	七	三	六	二	〇	一	
四	七	七				七	四	七	四	〇	〇	〇	〇	二	五	三			三	〇	〇	〇	
六	八	六	八	八	八	〇	四	二	六	九	八	一	五	八	四	五	七	〇	三	五	六	七	三
四	八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
一	一	七	二	一	四	一	一	四	一	二	四	五			二	二	四			一	四	三	
三	〇	五	七	三	三	三	三	三	三	三	三	三	六			三	三	三	三	三	三	六	
一	二																					一	
元						三	五			〇		九		六	四		一	五	七		四	四	
四	四	一	二	二	二	二	一	一	一	九	二			二	二	一	三	二		三	一	一	
二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
一	八		三		三		一	一	二		三		三	五	三		二		二		四	四	
			〇		〇		二	壹						四	三		二	〇		三	〇	〇	

四神早 神樂 富 本 駒 上 坂 谷 象 日 藏 菊 兩 太 厩 首 平 扇 洲 品 大 大  
 樂 稻 富 本 駒 上 坂 谷 象 日 藏 菊 兩 太 厩 首 平 扇 洲 品 大 大  
 谷 坂 田 坂 本 野 込 士 塚 坂 田 坂 谷

三	七	二	四	五	九	六	四	七	六	〇	〇	八	二	三	六	三	〇	八	三	三	〇	七	七	九
三			〇	三	五			六		五		〇	七		四	六	七	九	六	二	三	三	四	
四			四	〇	〇			三		〇		〇			〇	〇	三	三	三	〇	七	七	四	
八	五	八	〇	三	六	七	八	五	〇	三	五	〇	八	四	四	二	四	九	九	五	三	五	三	
七	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
二		三		二	二		三		二	七		二	五		二	一	五		二	二	一	一	二	
元		〇		〇	〇		〇		〇	〇		三	三		〇	〇		〇	〇		〇	〇		
二		三		二	二		三		二	七		二	五		二	一	五		二	二	一	一	二	
〇		〇		〇	〇		〇		〇	〇		三	三		〇	〇		〇	〇		〇	〇		
二		三		二	二		三		二	七		二	五		二	一	五		二	二	一	一	二	
〇		〇		〇	〇		〇		〇	〇		三	三		〇	〇		〇	〇		〇	〇		

# 東京産業報國會役員名簿

赤羽	尾久	南住	三河	日暮	千住	西井	寺島	香島	萬島	龜島	砂川	小松	東京	八王	町田	府中	田無	青島	五日	大島	八丈	合計	
九	六	九	二	四	八	七	七	三	二	八	三	二	九	五	二	三	三	三	六	元	二	二	二
四	一	一	一	五	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	
三	九	七	八	八	六	四	四	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
三〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
八	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	

職名氏名

電話局番號 勸先自宅/別 住所又ハ勤務先

警視總監 留岡幸男

銀座(57)五五一 勸先自宅 警視廳 警視廳官舎

東京府知事 川西實三

丸ノ内(23)〇一八一 勸先 東京府廳

貴族院議員 大河内正敏

下谷(83)〇四三七 自宅 下谷區谷中清水町一

大倉精神文化研究所長 大倉邦彦

荏原(08)五四三三 自宅 世田谷區玉川等々力三ノ七三九

貴族院議員 吉田茂

牛込(34)二〇三四 自宅 豊島區目黒二ノ一六〇〇

東京市長 大久保留次郎

丸ノ内(23)〇三六一 勸先 東京市役所

海軍大将 有馬良橘

澁谷(46)一六七〇 自宅 澁谷區大山一八

貴族院議員 水野鍊太郎

高輪(44)〇一八〇 自宅 芝區白金猿町六一

貴族院議員 平生釵三郎

大塚(86)五五三三 自宅 小石川區小日向臺町二ノ一八

理事 大野野 董

九段(33)一〇四六 勸先 自宅

海軍艦政本部造船兵監督

世田谷區玉川奧澤一ノ四三二 勸先 官事務所

伊藤染工場産業報國會々長	伊藤 一郎	墨田(46)三七五六	勤先	麹町區一番町二〇ノ二
日本光學株式會社産業報國會々長	波多野 義男	蒲田(46)二四九一	勤先	向島區吾嬬町二ノ二
中野伸銅所産業報國會々長	橋本 有隣	芝谷(43)二七九六	勤先	品川區大井森前町
大塚鐵工所産業報國會々長	大塚 榮吉	本原(7308)二八〇八	勤先	品川區大井森前町
警視廳保安衛生部長	細田 德壽	世田谷(5735)七七〇一	勤先	中野區小瀧町一八、中野伸銅所
凸版印刷産業報國會副會長	黒瀬 正彌	世田谷(5735)七七〇一	勤先	芝區三田豐岡町五九
パイロット産業報國會々長	渡部 旭	丸ノ内(23)〇一八一	勤先	芝區三田豐岡町六六株式會社大塚工場
京王電氣軌道産業報國會々長	寛 正太郎	丸ノ内(23)〇一八一	勤先	警 視 廳
陸軍憲兵大隊長	増岡 賢七	丸ノ内(23)〇一八一	勤先	小石川區水道端町一ノ六九
東西機械産業報國會々長	河野 密	丸ノ内(23)〇一八一	勤先	下谷區二長町一、凸版印刷株式會社
陸軍造兵廠東京工廠附屬少將	高 山 久藏	丸ノ内(23)〇一八一	勤先	淀橋區下落合二ノ六二五
東京府經濟部長	並川 義隆	丸ノ内(23)〇一八一	勤先	豐島區東鴨六ノ一三四九、パイロット
東京市電氣局産業部長	植木 壽雄	丸ノ内(23)〇一八一	勤先	萬年筆株式會社

三菱重工業東京玉川産業報國會々長	野口 松一	澁谷(46)三七五六	勤先	澁谷區櫻丘六三
大日本産報理事	町田 辰次郎	蒲田(46)二四九一	勤先	三菱重工業株式會社東京器機製作所
陸軍少將	松本 勇平	芝谷(43)二七九六	勤先	世田谷區大原町一三三五
淺野セメント東京工場産業報國會々長	小杉 義次	本原(7308)二八〇八	勤先	世田谷區松原町二ノ七一〇
東京鐵山監督局總務部長	中村 辰五郎	世田谷(5735)七七〇一	勤先	世田谷區北澤二ノ一六三
日本勞働科學研究所長	陣 峻 義等	世田谷(5735)七七〇一	勤先	世田谷區北澤二ノ一六三
東京府學務部長	加藤 初夫	丸ノ内(23)〇一八一	勤先	東京府學務部
鐵道省監督局鐵道課長	古谷 善亮	丸ノ内(23)〇一八一	勤先	瀧野川區西ヶ原町二九八
櫻田機械製作所産業報國會々長	櫻田 壬午郎	澁谷(46)二〇一七	勤先	澁谷區櫻丘町七六
警視廳特別警察部長	宮田 笑三	丸ノ内(23)〇一八一	勤先	京橋區銀座一ノ三、櫻田機械製作所
日本フェルト産業報國會々長	宮川 敬三	丸ノ内(23)〇一八一	勤先	警視廳特高部
王子産業報國會々長	宮川 敬三	丸ノ内(23)〇一八一	勤先	小石川區駕籠町一九六
高砂鐵工産業報國會々長	關 山 延	丸ノ内(23)〇一八一	勤先	王子區豐島町八、三日本フェルト株式會社
オリエンタル寫眞工業産業報國會顧問 産業報國聯盟理事	膳 桂之助	丸ノ内(23)〇一八一	勤先	品川區五反田五ノ六八
大日本産報編輯部長	石原 太藏	丸ノ内(23)〇一八一	勤先	京橋區銀座四ノ三

石川島造船所理事	○西山仁三郎	京橋(56)九四一七	自宅	深川區門前仲町二ノ七ノ一
東横産業報國會理事	西本定喜	澁谷(46)三一一一	自宅	石川島造船所石川島自強會事務所
警視廳特別高等警察部労働 兼調停課長	細谷喜一	銀座(59)五五一	勤先	警視廳特別警察部
東京憲兵隊特高課長	高田典文	九段(33)四一九五	自宅	麹町區竹平町三(官會)
陸軍憲兵中佐	大野巖	青山(636)四〇四六	自宅	澁谷區千駄ヶ谷三ノ五〇一
大野化學株式會社産業 報國會會長	大野常之助	駒込(82)二二二一(六)	勤先	大森區森々崎大野化學機械株式會社
陸軍造兵廠東京工廠附 陸軍歩兵大佐	荻野谷幸義	丸ノ内(23)一五五一	自宅	王子區下十條町
鐵道省監督官	渡邊幸義	蒲田(06)七五七一	勤先	陸軍造兵廠東京工場
鐵道省事務官	○加納憲治	大森(06)一八四九	自宅	麹町區六番町五ノ三
新湯鐵工所産業報國會 會長	横瀬精一	駒込(82)一〇六九	自宅	鐵道省監督局鐵道課
横瀬製油産業報國會會長	田坂政養	駒込(82)一〇六九	自宅	蒲田區本浦田五ノ四新湯鐵工所蒲田工場
東京自動車工業株式會社 品川産業報國會副會長	高橋佐久松	大森(06)七八五九	自宅	瀧野川區中里町三五七
東京府學務部社會教育課長	大道友雄	高輪(44)三二一〇	勤先	大森區新井宿二ノ一五二七
海軍艦政本部員海軍中佐	中田謙二	丸ノ内(23)〇一八一	自宅	品川區品川五ノ六一
東京府總務部地方課長	中西久夫	丸ノ内(23)〇一八一	勤先	東京自動車工業株式會社

石川島自強會常任理事	中山正則	牛込(634)六三四六	自宅	牛込區北山伏町四三
警視廳保安衛生部交通課長	川合壽人	京橋(56)五五一	勤先	京橋區佃島五〇、石川島造船所
東京地下鐵交通産業報國會 幹事	山本龍男	下谷(83)一六六七	自宅	警視廳
警視廳保安衛生部工場課長	○藤井重雄	銀座(57)五二〇〇	勤先	豐島區椎名町五ノ二一六四
三井鐵山産業報國會委員長	○深川正夫	九段(33)三七四〇	自宅	下谷區車坂町一二東京地下鐵株式會社
大日本産報鍊成局長	古屋了	荏原(08)五四六七	自宅	應觀廳保安衛生部
宇野鐵工所産業報國會會長	○福島松男	玉川(〇〇)三〇六	勤先	麹町區平河町二ノ二一
千代田機械製靴株式會社産 業報國會會長	○財滿秀雄	北八幡(〇一)一六五	自宅	日本橋區室町二ノ二
吾妻橋工場會長	○目谷善次郎	墨田(74)一七五五	勤先	三井鐵山會社本店勞務課
大東紡織産業報國會幹事	皆川利吉	墨田(74)一七五五	自宅	大森區上池上町一ノ一二四
東西機械産業報國會幹事	南金太郎	大塚(668)三六二六	勤先	世田谷區宇原根町四〇〇
南印刷産業報國會會長	篠澤久	高輪(44)六六一七	自宅	わかもと本舖東京工場
東京市電氣局産業報國會 理事		大森(06)六六一七	勤先	市川區八幡町七六七

三菱製紙株式會社產業報國事

白石稔

新宿 〇〇〇〇三

葛飾區金町四ノ一六七九  
三菱製紙株式會社中川工場

警視廳健康保險課長

○森田良雄

荻窪 二六四五  
丸ノ内(23)〇六二四

杉並區荻窪一ノ一三三  
日本工本俱樂部ビル全產聯内

支部名

高輪	三田	愛宕	月島	京橋	築地	新堀	堀留	久松	萬世	西神	錦町	丸の内	麩町
田中	大塚	松島	荒木	小紫	木村	柳田	秋田	林田	鈴木	大島	西川	植木	高羽
孝	吉	郎	弼	郎	郎	三	吉	治	助	吉	治	雄	次

所屬產報會名及同產報會ニ於ル役名

高羽被服產報會長  
東京市電氣局產報會長  
西川錦石堂產報會長  
株式會社博進社產報會長  
東印產報會顧問  
中島印刷產報會長  
秋田商店金屬溶解所產報會長  
柳田產報會長  
株式會社木村總本店產報會長  
若松印刷產報會長  
石川島自彊會々長  
秀美堂印刷所產報會長  
株式會社大塚工場產報會長  
株式會社田中航空機器製作所產報會長

太	兩	菊	藏	日	象	谷	坂	上	駒	本	大	富	早	神	四	青	表	六	鳥
平	國	橋	前	堤	湯	中	本	野	込	士	塚	坂	田	坂	谷	山	町	木	坂
瀧	赤	津	吉	上	川	川	小	黑	今	宇	渡	大	吉	小	寬	小	小	阪	小
澤	羽	熊	田	原	喜	出	野	瀨	井	甚	田	邊	橋	原	酒	井	正	谷	川
七	吾	三	一	兵	忠	重	信	正	太	一	松	良	吉	太	菊	一	良	郎	吉
郎	司	郎	郎	衛	助	熙	一	彌	郎	尙	郎	雄	三	藏	郎	清	造	郎	吉

安立產報會長  
マスタ一產報會長  
日本自動車株式會社產報會長  
間組產報會長  
京王電軌產報會長  
研究社印刷所產報會長  
廣文社產報會長  
共同印刷產報會長  
中外印刷產報會名譽會長  
日東印刷產報會長  
杏林會產報會長  
凸版印刷株式會社產報會長  
櫻印レンズ工業株式會社產報會長  
大日本製藥株式會社產報會長  
帝國出版報會長  
東京原皮株式會社產報會長  
吉田印刷產報會長  
津熊工場產報會顧問  
東洋工機株式會社產報會長  
瀧澤工業株式會社產報會長

寺西千日三南尾赤王練板瀧目池巢萩杉野中戸

新 暮 河 千 野

島井住里島住久羽子馬橋川白袋鴨窪並方野塚

新湯宮眞増日磯西宮西尾中松安山渥西高橋菊

井淺下野野比部川關村尾田本美野濱本地

藏一爲次清孝太藤右衛健篤秀次之秀吟三之有久

太郎治郎香郎郎門三男二三郎助雄作郎助隣吉

- オリエンタル産報會長
- 中野伸銅所産報會長
- 生盛藥劑産報會長
- 八洲光學産報會長
- 中野乗合産報會長
- 山洋産報會長
- 安西鑄物産報會長
- 松尾毛糸紡績所産報會長
- 中村ドラム罐工業株式會社産報會長
- 株式會社京北電機製作所會長
- 小田原製紙株式會社東京工場産報支部長
- 日本フェルト株式會社産報會長
- 日本色素産報會長
- 旭電化産報會長
- 鐵紡南千住工場産報會長
- 株式會社増野製作所産報會長
- 合資トシボハローモニカ手風琴製作所産報會長
- 大和毛織株式會社産報會長
- 日立龜有工場産報支會長
- 鐘紡東京工場長

淀代原澁碑目玉世浦東大荏大大品洲扇平言厩

文 田 調

橋木宿谷谷黒川谷田布森原崎井川崎橋野間橋

杉下池松鈴岩和相富渡水關波大松峰竹今青

浦邊尾木山馬岡邊島多來本口村木

誠村稻玄治治閏正三周義修新嘉作兵信五

郎保生吾郎亨諄郎二重郎平延男治太六衛吉郎

- 碌々商店工業部産報會長
- 東京帽子株式會社産報會長
- 乳熊味噌産報會長
- 合資會社峰製作所産報會長
- 藤倉産報會長
- 株式日本氣化器製作所産報會長
- 會社日本光學工業産報會長
- 高砂鐵工株式會社産報會長
- 電機工業株式會社産報顧問
- 日本特殊鋼産愛會長
- 株式富岡光學機械製造所産報會長
- 會社富岡光學機械製造所産報會長
- 東京計器産報會長
- 中山製作所産報會長
- 株式會社柳製作所産報會長
- 万有製藥産報會長
- 鈴木糧食研究所産報會長
- 松尾螺子産報會長
- 小田急交通報國會長
- 日本タイプライター工場産報會長
- 六櫻社産報會長

八 大 五 青 田 府 町 八 東 小 砂 龜 葛 香  
 文 日 京 松  
 島 島 市 梅 無 中 田 子 上 川 町 戶 飾 婦  
 西 山 田 山 佐 中 木 片 和 竹 油 吉 大 福  
 川 本 中 田 久 島 本 倉 田 井 田 和 島  
 信 間 田 眞 松  
 福 盤 銀 太 一 進 彖 亮 顯 俊 尙 太  
 吉 彦 藏 郎 郎 治 藏 平 治 郎 郎 操 郎 男

千代田機械製靴産報會長  
 大和ゴム産報會長  
 産報日立龜戶工場温交會長  
 日本鑄鋼株式會社産報會長  
 ライオン油脂株式會社産報副會長  
 郵船運輸株式會社産報會長  
 片倉製糸紡績會社八王子製糸所産報會長  
 岡第三醬油釀造工場産報會長  
 日本無線電信電話株式會社産報會長  
 中島飛行機武藏野製作所産報會長  
 府是製糸産業報國會長  
 田中製材工場産業報國會長  
 大島旭光事業産業報國會長  
 坂下産報會長

昭和十六年十一月二十日印刷

製本控

912 函 404 號

年 月 日

産業報國運動概要

昭和15年

備考

吉 郎 印 社

昭和十六年十一月二十日印刷  
東京赤坂區表町一ノ三

八 大 五 青 田 府 町 八 東 小 砂 龜 葛 香  
 丈 日 京 松  
 水

島 島 市 梅 無 中 田 子 上 川 町 戶 飾 燻

西 山 田 山 佐 中 木 片 和 竹 油 吉 大 福  
 川 本 中 田 久 島 本 倉 田 井 田 和 島  
 信 間 太 一 進 彙 亮 顯 俊 尚 田 真 松

福 盤 銀 太 一 進 彙 亮 顯 俊 尚 田 真 松  
 吉 彦 藏 郎 郎 治 藏 平 治 郎 郎 操 郎 男

千代田機械製靴産報會長  
 大和ゴム産報會長  
 産報日立龜戶工場溫交會長  
 日本鑄鋼株式會社産報會長  
 ライオン油脂株式會社産報副會長  
 郵船運輸株式會社産報會長  
 片倉製糸紡績會社八王子製糸所産報會長  
 岡第三醬油釀造工場産報會長  
 日本無線電信電話株式會社産報會長  
 中島飛行機武藏野製作所産報會長  
 府是製糸産業報國會長  
 田中製材工場産業報國會長  
 大島旭光事業産業報國會長  
 坂下産報會長

昭和十六年十一月二十日印刷  
 昭和十六年十一月二十五日發行

【非賣品】

編輯兼  
 發行人  
 東京市麴町區霞ヶ關一ノ二  
 今井俊介

印刷人  
 東京市赤坂區表町一ノ三  
 山口義次郎

印刷所  
 東京市赤坂區表町一ノ三  
 園佑社  
 電話赤坂(四)二六一七番

發行所

東京市麴町區霞ヶ關一ノ二(警視廳內)  
 東京産業報國會  
 電話銀座(五)自五五二一  
 至五五二一





509.19
To 46

終